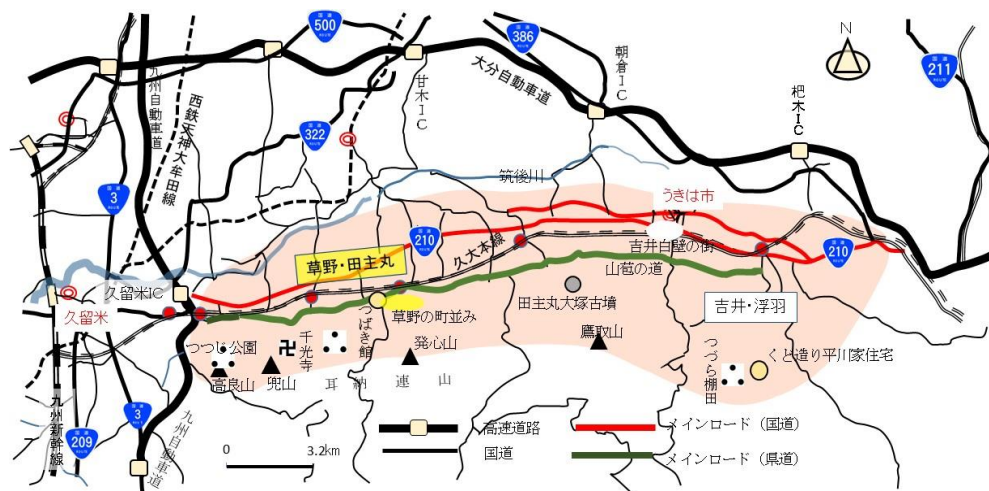


みどりの里・耳納風景街道



久留米市
うきは市

人口
31万人
3万人

面積
12
13
70
km² km²

(2015/5
現在)

人のくに、美のくに九州

(日本風景街道 Q-11)



耳納連山の北ふもとに自然豊かに広がるみどりの里

目次

(1) ようこそ みどりの里・耳納風景街道へ	1
(2) 「ほとめく」みどりの里・耳納風景街道	3
① サクラ街道と歴史ドラマの道（水縄断層から4百階段サクラ回廊）	約5 km
② 耳納の四季を感じる道（稻荷大明神―浅井の一本桜―永勝寺）	約6 km
③ 草野の街歩き（発心公園―久留米つばき園―山辺道文化館	
―久留米市世界のつばき館）	約8 km
④ 木々の緑あふれる道（山苞の駅―内山緑地―しだれ桜並木）	約6 km
⑤ 巨峰とワイン、山苞の道（大塚古墳歴史公園―山苞の道―ワイン工場）	約6 km
⑥ 白壁の町めぐり（吉井町並み―フルーツ園）	約15 km
⑦ つづら棚田と森林セラピーの道（つづら山荘―つづら棚田―長岩公園	
―くど造り民家・平川家）	約3 km
(3) ゆっくり「山と里」を歩こう	11
① 耳納連山スカイライン（高良山から発心公園）	
② 白壁の街のそぞろ歩き	
③ 草野・山辺の道へ	
④ 癒しの森林へ、ようこそ	
(4) めぐり歩きの道	20
① 花めぐりの道	
② 漱石が歩いた道	
③ 歴史を巡る道	
④ カップを訪ねる道	
(5) 四季折々―巨峰とワイン物語	28
(6) 耳納の道・豊後街道	30



① くど造りの平川家住宅（国重文、うきは市新川田竈地区）



② 久留米つばき園。世界のつばきが花咲く（久留米市草野町）

(1) ようこそ みどりの里・耳納風景街道へ

青木繁、夏目漱石、火野葦平への贈り物 山里の道、「癒し」の里

みどりの里・耳納風景街道の一つに「山苞（やまづと）の道」がある。わらなどで包んだ山里の贈り物を持ち帰れる里の意味を込めている。耳納の里の桜やツツジ、つばきなど四季折々の花やフルーツ、植木・苗木―。耳納の山里の心の込められた贈り物だ。また、山里風景やそこで暮らす人々から「癒し」や「新しい発想」、楽しく生きる「楽生」など形のない贈り物を訪れる多くの人が受け取っている。

洋画家で歌人の青木繁は久留米生まれ（明治15年）、21歳で第1回白馬賞受賞。妻と別れ、家族と故郷を捨てて放浪の旅へ。しかし、望郷の思いをたち難く、耳納連山の北麓に「ふるさと」の原風景を強く感じ

「わが国は筑紫の国や白日別母あます国櫃多き国」と詠った。

わずか28歳、結核で命を絶った。「彼の山のさみしき頂より思い出多き筑紫平野を眺め、怨恨と憤懣と呪詛を捨てて静かに永遠の平安なる眠りに就く可く候」と耳納のケシケシ山（兜山）に散骨を願い、永遠の眠りについた。繁はケシケシ山に幾度も登り、スケッチ、創作の発想を得たという。毎年、3月25日の命日に近い日曜日にはこの山で「ケシケシ祭り」が行われる。もがき続けた短い人生、耳納のお山に、安らぎと「癒し」を求めたのである。ケシケシ山麓の道には、秋、「柳坂曾根のハゼ並木」が青木繁の絵画への情熱を表すように真赤に紅葉する。

明治の文豪・夏目漱石もまた熊本の高橋教授時代、しばしば耳納の里を訪れ、山に登り、里を散策している。前任地・松山時代から「子規さんあたりに動かされて一生懸命句作した」頃で、まだ、この時期には小説は書いていない。耳納の山の風景を俳句に映し、散策の中で、小説家への準備が着々と整えられていた。漱石は、白馬賞を受賞した青木の作品を見て、感動。小説「それから」でも青木を取り上げ、放浪に姿を消した青木の「天才」を惜しんでいる。

○耳納散策で生まれた「草枕」

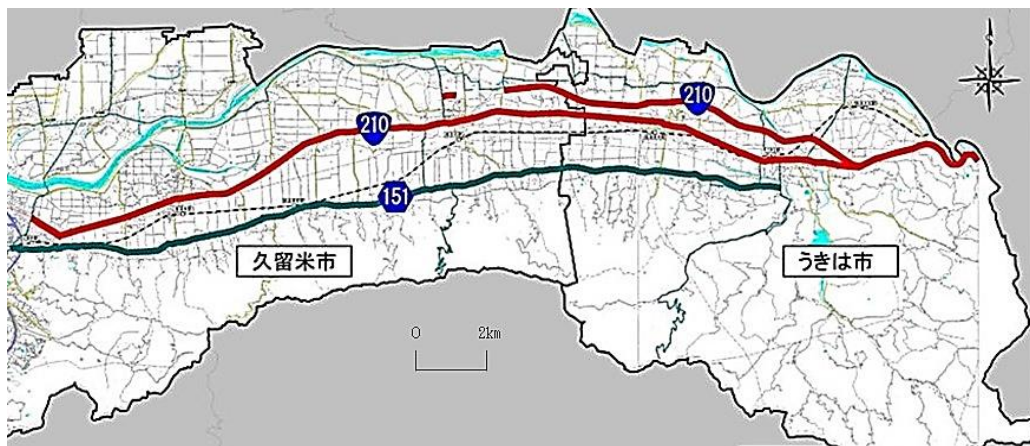
耳納の山からの漱石への「贈り物」は、俳句的小説とも言われる「草枕」だろう。尾根を歩きながら、眼下に広がる菜の花で黄色に染まった筑後平野、真つすぐ飛びあがってくるヒバリ。そして古城跡の桜。そんな耳納の山越えから里への風景を織り込み、「山路を登りながら、こう考えた」で始まる美を生命とする新小説「草枕」を書き上げた。漱石の自信作の一つだ。また、耶馬溪を訪ね、日田、吉井（うきは市）を経て久留米へ帰る途中、山川追分（久留米市）で人力車の車夫に「親方」と声をかけられた。「旦那」でもなく「先生」でもない。それをおかしがり、後にユーモアあふれる小説「坊っちゃん」に描き込んでいる。耳納の山とその麓の風景、人々が漱石に小説家への新しい道を拓いたと言えるだろう。

○葦平、カップに惚れる

何と言っても、土地の人々に親しみを感じ、田主丸に通い詰めたのは北九州市・若松の作家・火野葦平③。「麦と兵隊」などを書き、芥川賞作家にもなった葦平は、戦後、追放され落胆の毎日を送った。そんな時、田主丸の河童伝説を聞き、また、筑後川に潜って、大きな鯉を抱き上げるように素手で捕える河童人間「鯉とりまあしやん」とも出会った。河童を小説に43篇も書き、「河童族の会」を田主

「ほどめき」の久留米
「ほっこり」うきは





そこには、とっておきの物語があります

丸の仲間と立ち上げた。耳納の里には、いたずら坊主のような、ほほえましい河童伝説が多く、川べり、橋の欄干は勿論、山の中でも河童像と出会う。田主丸の地名は「楽しく生まれる」ことからきているという。耳納の里人は、今も訪れる人への優しさ、「ほっこり」とした人情を感じさせる。青木繁、漱石、葦平は、耳納北麓での景色とそこで暮らす人々との、出会いの中で、癒しを求め、新たな創作へ心を向かわせ、「楽生」の心を育てたのだろう。

○春爛漫、そのままに

青木繁、夏目漱石、火野葦平が愛してやまなかった耳納山麓の風景。それは自然の贈り物だけではない。多くの人が、花づくり、家づくり、景観づくりの努力を積み重ね、大切に引き継がれたものだ。心を和ませる古寺や神社は山間に多い。樹齢三〇〇年というつばきの古木が、今も花をいっばいに咲かせ、古寺、神社を巡る人を迎えてくれる。室町時代の茶道に由来すると聞いた。桜、ツツジ、あじさい寺もある。

春、山里を歩くと、梅、桜、ツツジが山野や家々に咲き乱れ、「春爛漫」の言葉そのままの景色の中に入っていく。自然の山野に加えて、耳納山麓の人びとの挫けることのない志によってこの風景が創られたことは、「植木発祥之碑」⑭の説明で知ることが出来る。藩政時代の蠟の生産から、今日の日本有数の植木産地となるまでには、多くの労苦とたゆまぬ品種改良・研究の努力の積み重ねがあったのだ。永年の苦労の末、誕生した巨峰ブドウは、その名のようにな、たわなに大きな粒の房を付け、ブドウ狩りを一層楽しくし、巨峰ワインの甘酸っぱさは忘れられない味となるだろう。

○シールボルトが愛した椿

草野の古民家はつばきやツツジの古木を大切に世話している。久留米つばき「正義(まさよし)」など、シールボルトによってヨーロッパに広がり、人々を魅了した。久留米市(草野)に「世界つばき館」⑧が開館して、つばき園と共に、つばきの美の広がりや深さを知ることが出来る。有名な久留米ツツジも、春の主役となって、百年公園や緑化センター、個人宅や道沿いに咲き誇っている。植木市では気に入ったツツジなどの苗木を買って帰る人が多い。

○癒しを求めて

吉井(うきは市)の街は、豪壮な商家や蔵が並び、白壁通り散策する人が多い。その町並みと共に、人々をひきつけるのは、限上川をさかのぼった「山里ひめはる」(うきは市新川・田籠地区)。秋、黄金に染まった棚田の畔を曼珠沙華が赤く縁どる。「つづら棚田」⑮は棚田百選に選ばれた。九州北部豪雨(平成24年)で石垣が崩壊、田は土砂で埋まったが、この山里や棚田を愛する人々が駆けつけ、美しく蘇った。

この一帯は茅葺屋根や「くど造り」の民家①や石垣など山里の原風景を保ち、森林セラピーロードのほか、名水百選「清水湧水」、水源の森百選「調音の滝」、森林浴百選「長岩公園」があり、心や体の「癒し」を求めて多くの人が訪れる。みどりの里・耳納風景街道はそんな豊かな山辺の道、山里、懐かしい町並みの道である。



③ 鯉とりまあしやんと語り合う葦平



「親方と呼びかけられし毛布哉」—漱石の句碑



④ひょうきんな河童像＝ＪＲ久大線・田主丸駅のホームでは、巨大なカップがお出迎え。

「楽しく生まる」に由来する田主丸（たぬしまる）という地名や、訪れる人へのもてなし心を表す「ほとめき」という言葉、山から贈り物という意味を込めて名付けた「山苞（やまづと）の道」。この山里を、訪ねる人、暮らす人、みんなを幸せにする風景街道だ。

みんなを幸せにする道



赤いマフラーを首に巻いた恵比寿さま＝その「えびす顔」が人々の心をなごませる（草野）。

（２）「ほとめく」みどりの里・耳納風景街道

七つの散策コース案内

耳納連山の北麓を走る「みどりの里・耳納風景街道」は花と果実と植木の山里の道だ。山麓を筑後川が悠々と流れ、かつて天領・日田と久留米を結ぶ豊後街道（現在の国道210号）と共に人と物と文化を運んだ。筑後川の豊かな水は穀倉平野をつくり、耳納連山からの「水縄（みのう）」の清流と湧水は果樹を实らせ、花木の苗木を育て、独特の風景街道を形作っている。豊後街道は草野や吉井の街など、かつて城下町あるいは在郷町、そして豊かな農産物の集散地として栄え、寺社や白壁の旧家、堀割が今もその面影を残し、そぞろ歩きを楽しむ人が多い。

散策には四季折々、久留米市で5コース、うきは市で2コース、計7コースがある。

春から初夏へはヤマザクラ、ツツジ・サツキ、ハクモクレンなどが百花繚乱。「浅井の一本桜」⑭や夏目漱石が愛した発心公園の桜など桜回廊が出来る。草野や吉井の街歩きでは、春には「おひなさま祭り」⑮「小さな美術館めぐり」などイベントが催され、街の歴史を知るには小さいながら歴史民俗資料館が充実している。町から麓に足を運ぶと、花や苗木を求める家族連れが、大きな植木センターや植木屋さんが道沿い庭先に開く小さな植木市を覗いて回る。

秋はハゼ並木やイチヨウの大き木が赤や黄色に紅葉、ブドウやナシ狩りを楽しむ人々がやってくる。散策には、「ハゼ並木」や銀杏、ブドウ、ナシ、カキの果樹園が待っている。特産「巨峰」はその名の通り大きく甘い実の豊かな房をつけ、ワイン工場では、巨峰ワインが楽しめる。

冬はウメの白と深紅の花が、また世界から集められた色もとりどりのツバキが花開く。久留米市世界のつばき館⑩や久留米つばき園、そして家々の庭に白梅、紅梅、ヤブツバキが花開いて冬の「花街道」を造っている。

訪れる人、住む人も 楽しく生きる―「田主丸」

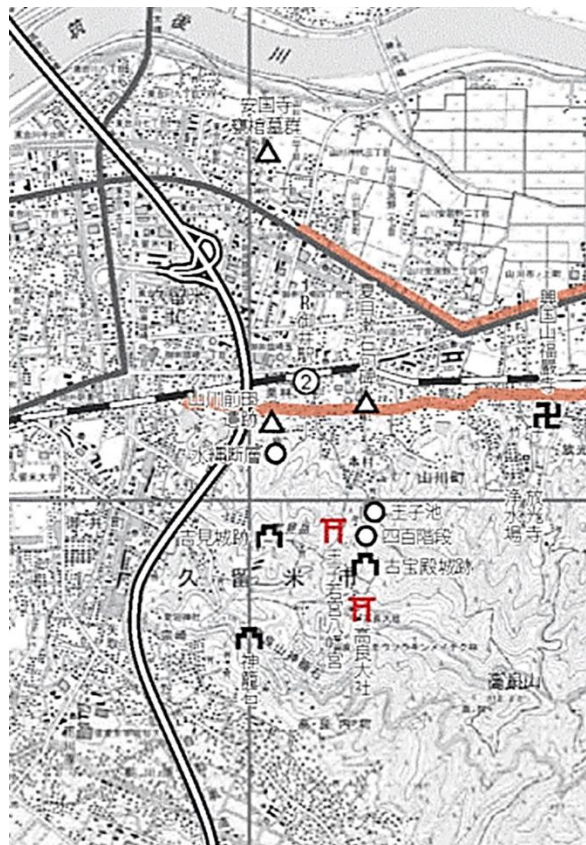


⑤ 高良大社



⑥ 四百段の階段を登ると古宝殿城跡に不動明さまが待っている。

散策コースⅡ JR久大本線・御井駅―漱石句碑―水縄断層―王子宮八幡宮・王子池―四百段階―古宝殿城跡―放光寺浄水場など(約5km)



散策コース① サクラ回廊と歴史ドラマを体感する道

高良大社⑤の麓一帯に広がる王子憩の森を中心としたコース。その先には弥生時代の安国寺甕棺群、奈良時代の「筑紫の国大地震」の跡「水縄断層」(山川前田遺跡)、高良大社への山道に見られる神籠石、さらに九州征伐に來た秀吉が陣を張った吉見城跡など歴史遺産が豊富。桜のトンネルの四百階段⑧を登ると不動明さま⑥が待っている。王子宮八幡宮・王子池では350年間続く伝統の花火動乱蜂⑦、③③が行われる。王子池など桜、紅葉の名所が多い。



⑦ 無形文化財、花火動乱蜂の碑



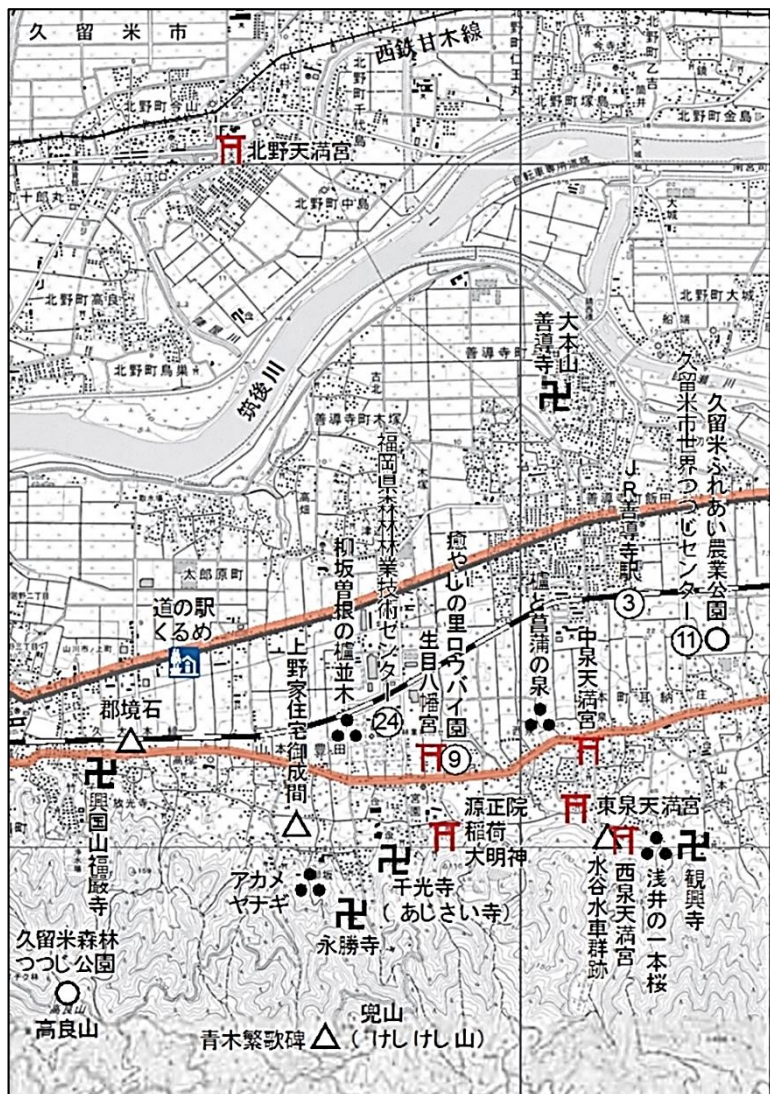
⑧ 王子池から桜のトンネルを登る四百段の階段

散策コース② 耳納の四季を感じる道（久留米市・山本校区）

花・紅葉が美しい。全国街路樹100選「柳坂曾根のハゼ並木」③⑤をはじめ、浅井の一本桜③④、久留米市世界つつじセンター⑩、龍護山千光寺（あじさい寺）⑩、紅葉の永勝寺、蟬梅園など花の名所がずらりと並ぶ。また洋画家・青木繁の歌碑があり、永勝寺からは青木繁が愛した耳納連山・ケシケシ山（兜山）への登山道があり、山頂にも坂本繁二郎が筆を執った歌碑がある。観興寺、福巖寺、老松宮など古寺、また西泉、中泉、東泉天満宮、生目八幡宮など神社も多い。

⑨ 久留米市世界つつじセンター

久留米市政百周年で世界から集められたツツジ約1600品種2万本以上を楽しむことが出来る。



散策コース＝（東ルート） 山本コミュニティセンター前（バス停）→源正院稲荷大明神→西泉天満・水谷水車群跡→浅井の一本桜

（西ルート） 道の駅くるめ→ハゼ並木→永勝寺→千光寺、あるいは上野家住宅御成間・庭園（約9km）





⑩久留米市世界のつばき館＝ガラスハウスにはベトナム、中国などから集められたツバキ100種以上。



散策コース＝JR 筑後草野－発心公園－久留米つばき園－石垣－若富八幡宮－古木（個人宅）－世界のつばき館－山辺道文化館－鹿毛邸－草野歴史資料館－須佐能袁神社－専念寺（約 9 km）

散策コース③
つばき・ツツジと町並みに魅了される道
(草野校区)

草野は城下町、宿場町として栄えた歴史の町であると共に、世界のツバキツツジの華やかで珍しい花を観賞できる花の街でもある。開館したばかりの世界のつばき館⑩から、地元の人々が創った「つばきの小径」を辿って久留米つばき園へ。個人の旧家にも樹齢300年を超えるつばきが咲き誇っている。久留米つばき「正義（まさよし）」は江戸末期、シーボルトがオランダに持ち帰ってヨーロッパに広がった。鎌倉以来300年以上この地を領国とした草野氏が創建、再建した寺社が多い。須佐能袁神社③⑧、その近くの専念寺⑫などはきらびやかな装飾が施されて、一門の繁栄を今に伝える。



⑬ 山辺道文化館＝旧病院を歴史建造物として保存。国の登録有形文化財で2階には喫茶室がある。



⑫ 専念寺＝本堂や内陣は金泥、朱塗りで格天井は龍、四方に極楽浄土。「九州の目光」と呼ばれる。



⑪ 発心公園＝草野氏の居城跡。春には170本以上のサクラが満開。歴代久留米藩主が花見に訪れた名所。

散策コース④

木々の緑であふれる道（久留米市田主丸・竹野校区）

散策コース＝山苞の駅－阿蘇神社－
内山緑地－しだれ桜並木－山汐の大
岩－雲遊寺－飛塚神社（約8km）

阿蘇神社の大楠は樹齢1500年、太い根ががっち
り大地をつかみ、高さ23mだ。内山緑地へはカイヅ
カイブキの太木が並ぶ坂をのぼって行く。山裾を真っ
白にするハクモクレンが春を告げる。しだれ桜の並木
もある。雲遊寺では山桜の太木が待っている。国道2
10号沿いに「植木発祥の地」の記念碑⑭があり、江
戸時代からの先達たちの植木栽培の苦労が偲ばれる。



春を告げるハナモクレンの群生

コラム 植木300年の里

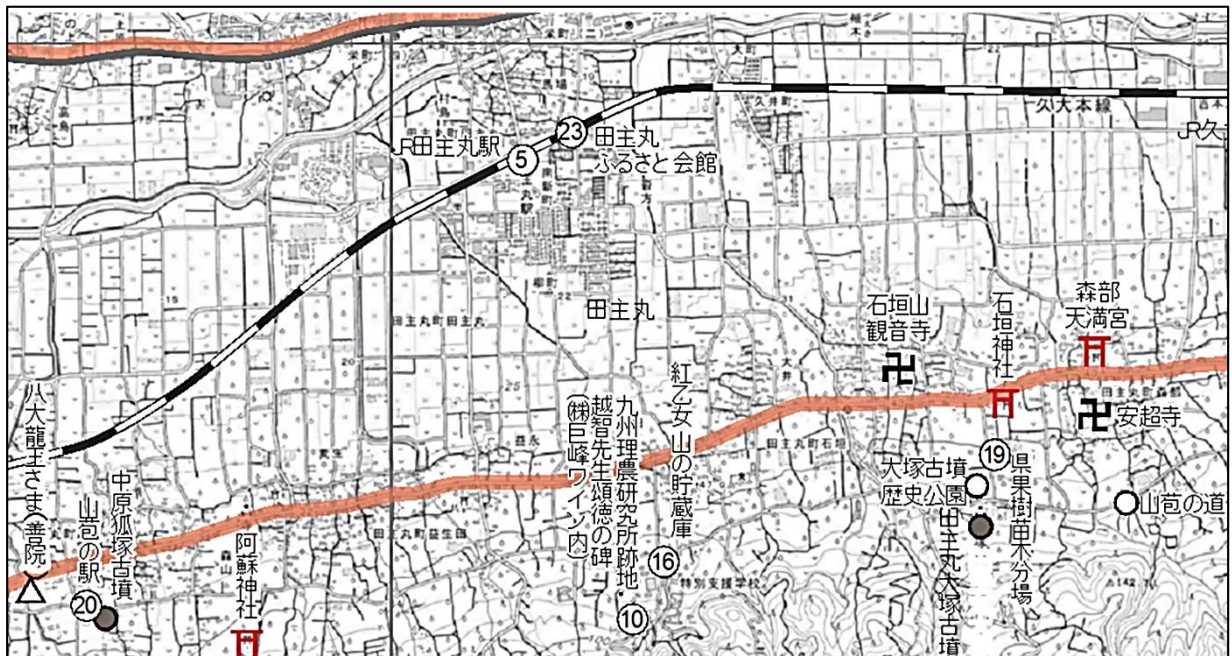
国道210号沿い、諏訪神社に隣接
して、記念の石碑「植木苗木発祥地の
碑」が建っている。碑文によると、「藩
政と天災と人災にさいなまれる農民が
選んだ副業」で、江戸・元禄元年から、
ツツジ、つばき、牡丹などの育苗が始ま
った。

江戸中期のハゼ栽培から本格化した
植木業は、代々受け継がれ改良された
栽培技術もあって発展。戦中の食糧難
時代には中断するなど、苦労を乗り越
え、育苗技術の研究開発の努力の甲斐
あって、ようやく軌道に乗った。経済成
長、マイホームブーム、緑化運動などを
経て現在では一大産地にまで成長して
いる。

春の訪れと共に植木市が開かれ「発
祥の地」として毎年、久留米市百年公園
で「久留米植木祭り」が開催され、ツツ
ジ、梅、桜、椿などが展示即売される。



⑭



散策コース⑤ 巨峰とワイン、山苞の道 (久留米市田主丸・水縄校区)



①⑥ 田主丸大塚古墳＝6世紀後半の前方後円墳で九州最大の規模。田主丸一帯を支配した豪族の墓と思われる。



①⑤ 山苞の道＝苞はワラに包まれた土産物を意味する。地元の有志でつくる山苞の会が活動主体で「手にも心にもお土産を持って帰ってもらおう」と種々のイベントを行っている。

散策コースⅡ王塚古墳歴史公園―山苞の道―巨峰ワイン―紅乙女―石垣山観音堂
(9 km)

九州最大の前方後円墳とされる田主丸大塚古墳①⑥周辺はこれまでの古墳公園を拡大する形で整備された。古墳は全長103m、後円部の直径は60m。この地が古代から栄えてきたことを物語る。すぐ近くには山苞の道。この通り名は源氏物語に由来する。

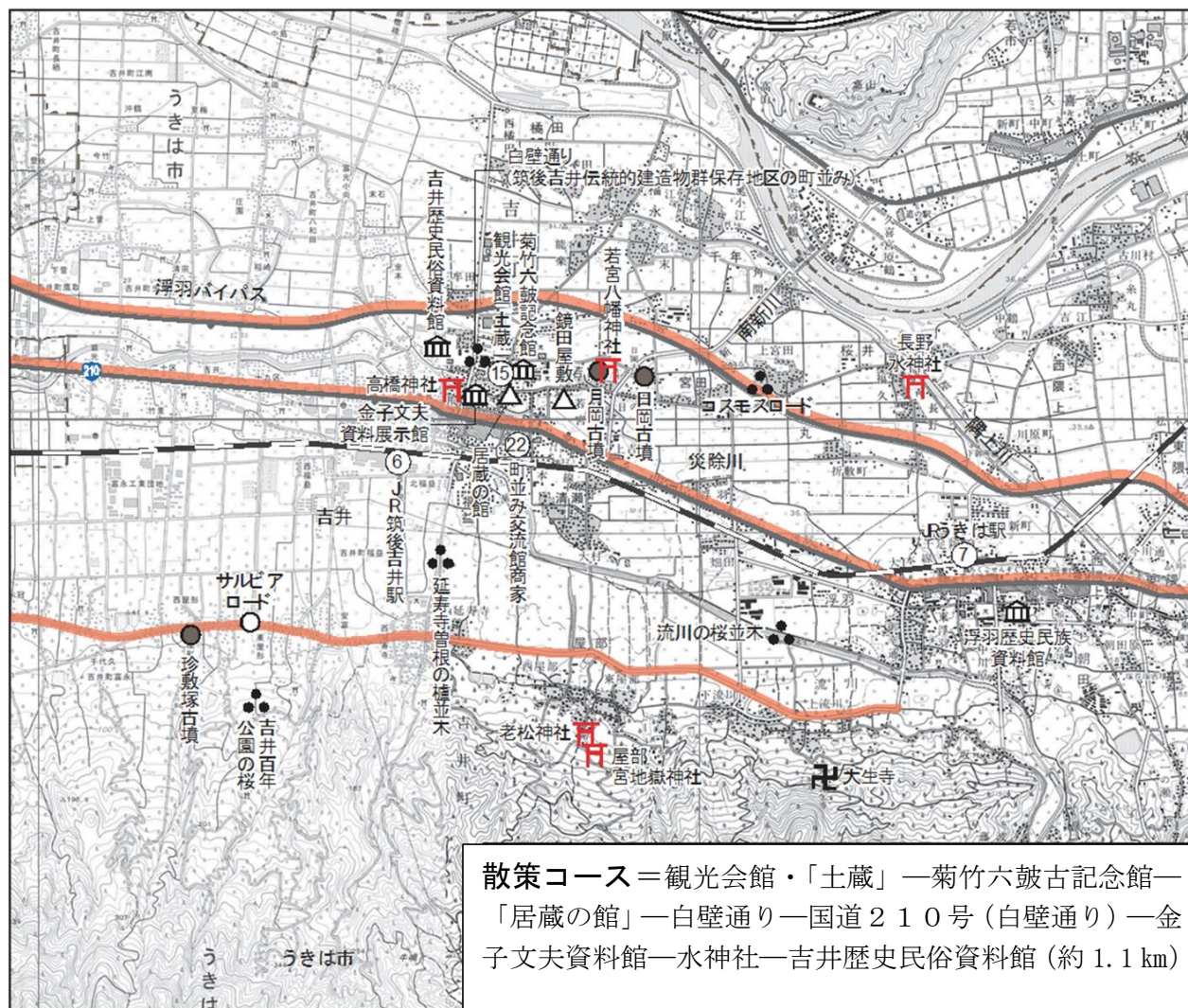
周辺はブドウ畑が続く、特に巨峰ブドウは農家が研究所を造り、「巨峰狩り」の観光バスが訪れるまでの産地に育て上げた。約200m山道を辿ると巨峰ワイン工場。石組みの貯蔵庫などもあり巨峰ワインを楽しむ。隣接して紅乙女の祥耐工場やレストランなどもある

散策コース⑥ 白壁の町めぐり（うきは市吉井）



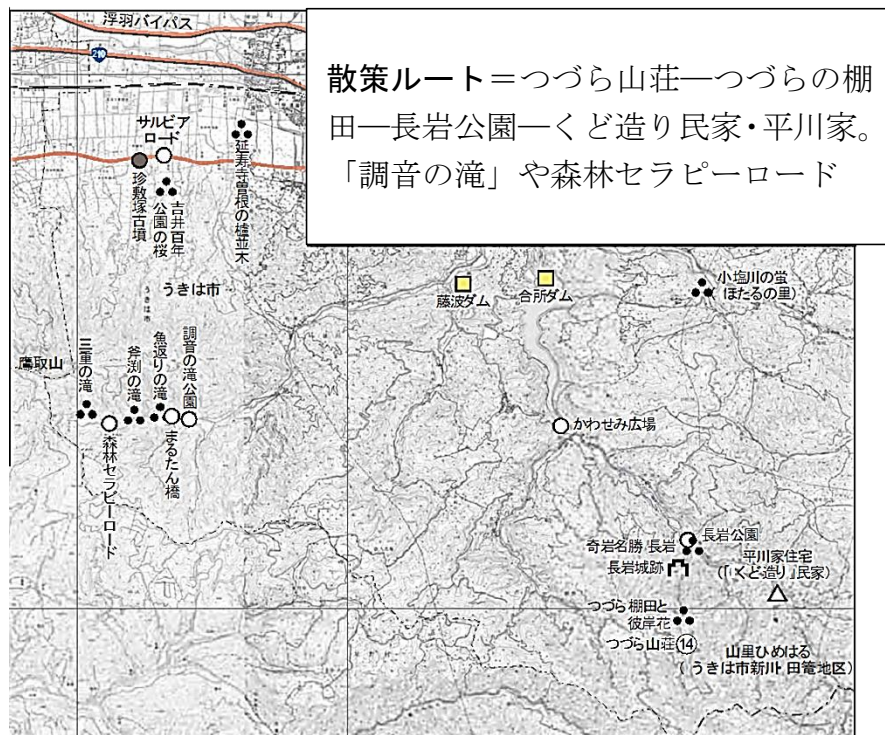
⑩「水清く、商家軒を連ねる」と江戸時代から、町並みの美しさが称えられた。白壁の住家、蔵が百数十軒も残っている。

吉井町は江戸時代、豊後街道の宿場町として、明治になると商業、金融、醸造業が集まり栄えた。その名残をとどめる白壁の大きな家⑩が軒を並べている。住居と蔵が一緒になった「居蔵」や土蔵、屋敷などの伝統的な建築物群。白壁は大家の経験から防火のため漆喰で塗り込め、2階の窓は鉄の扉で守られている。「うだつ」をあげている家もある。また、五庄屋の努力で築堤された大石堰⑨からの清流が街なかを潤す「水の街」でもある。



散策コース⑦

つづら棚田と森林セラピーの道（うきは市）



秋。日本棚田百選・「つづら棚田」⑱は真っ赤な彼岸花が畔を縁取り、実った稲穂と共に、日本の原風景を描く。九州北部豪雨（平成24年）で石垣が壊れ、土砂で棚田は埋まったが、この棚田を愛する人びとの活動で蘇りつつある。夏は隈上川の清流、舞うホタル、そして茶畑。四季折々、山里の風景が展開する。周りの森林には「森林セラピーロード」が整備され、癒しの散策路となっている。素朴な山菜料理も。



⑱ つづら棚田（うきは市新川・田竈地区）



⑲

調音の滝⑳

巨瀬川の上流、妹川地区にある調音の滝は、水の音が「調音」のように聞こえることから、この名前があり、ここを出発点にセラピーロードが作られている。

(3) ゆっくり「山と里」を歩こう

- ① 耳納スカイライン（高良山から発心公園）
- ② 白壁の道・そぞろ歩き
- ③ 草野 山辺の道へ
- ④ 癒しの森へ、ようこそ

みどりの里・耳納風景街道の魅力は「歩く楽しみ」だ。ツバキ・サクラ・ツツジをはじめ、四季折々の花々が咲き誇る。文豪・夏目漱石や天才洋画家・青木繁が愛したゆえんだ。麓に降りると、白壁の街が待っている。四百年の城下町の草野、白壁の街・吉井を歩くと、時代をタイムスリップする。



高良大社本殿の裏山はツツジの原種が満開となる。



①① 黄金色の孟宗竹（天然記念物）



①② 神籠石が山を守る

① 耳納スカイライン



①② 耳納スカイライン
夏目漱石が愛した耳納連山の尾根歩き。ここから代表作が生まれた。

○高良大社

古代の人は、風景を見る目が雄大だ、とつくづく思う。耳納連山は筑後川の南側に沿って東西に約20km続く「屏風」のように急峻な崖の多い山地。その姿から「景行天皇は生葉山を船山となし、高羅山を梶山となし船を造り」（肥前国風土記）と伝え、耳納山地全体を船に見立て表現している。

この連山は九州島を二つに割る中央構造線の北側の一部で、古生代に断層活動で大地が押し上げられて耳納連山が出来たとみられている。高良大社

への登り口を左に入ると、「水縄断層」（山川前田遺跡・国指定天然記念物）がある。天武の大地震（日本書紀、679年）を引き起こした断層活動の跡。記録に残る日本最古の大地震で、地割れが幅6m、長さ9kmに渡って土地を引き裂いた。ここは地球規模の地殻変動の現場でもある。

○いきなり夏目漱石

久大本線御井駅から麓へ向かう。旧道に出たところに、夏目漱石の句碑（2p 下右写真）があった。突然、明治の文豪の登場である。明治32年、大分・耶馬溪からの帰り、久留米に向かっていた漱石に、客待ちしていた人力車の車夫が「親方」といきなり声をかけてきた。「乗っていかんか」。それが漱石にはおかしくて。

親方と 呼びかけられし 毛布哉

余程、印象的だったのだろう。小説「坊っちゃん」にこのシーンを使っている。人々は耳納連山を霊山として仰ぎ見た。高良山は312mほど。鎮座するのは、高良大社⑤。麓の石造大鳥居から旧参道の坂道を登る。登山というより、きつめ

のウォーキングで家族連れも多い。途中、大きな石組みの「神籠石」②がある。大宰府の水城と同じ時代の山城防衛線だが、列石がかなり欠けているのは「天武の大地震」によるものだという。約1時間で展望台、さらに急な石段を登って社殿にたどり着く。格式は高く正一位、「筑後一の宮」。勿論、車道で参詣する人が多い。

拝殿に 花吹き込むや 鈴の音

高良山は連山の西端が最も低く、東へ伸びる稜線は次第に高さを増し、鷹取山（802m）に至る。見どころは多い。何といっても眼下に広がる筑後平野と悠々と流れる筑後川。夕日に照らされて輝く光の川に変身する。

菜の花の 遥かに黄なり 筑後川

○花の山

高良大社周辺には金色の孟宗竹（国指定天然記念物）④が群生、境内には、樹齢300年といわれるミヤマキリシマを品種改良したツツジの原種が濃い紅色の花を咲かせる。

耳納連山は花の山でもある。一番人気は久留米の名花・ツツジ。久留米市森林つつじ公園へは、自然歩道を歩くのがいい。「草笛の径」と名付けられた高良大社から奥の院への小道を辿ること約30分。開花時期には、山斜面にびっしり植えられたツツジの古木が赤、白、赤紫と色鮮やかに咲き誇り、久留米ツツジの名を全国に響かせる。善道寺町には「世界つつじセンター」⑨がある、約1600種、2万本の母樹園や種の保存のための母木園がある。ツツジ改良の研究センターだ。耳納山麓には9つの自然歩道がある。サザンカの自生林・溪雲台への「石雲の径」。「漱石の径」もある。夏目漱石が久留米の友人を訪ねる際に歩き、「草枕」にも書いた道が辿れる。漱石が発心山（689m）城跡④で桜見をして、筑後平野



②「親方と呼びかけられし毛布哉」漱石句碑



水縄断層跡



グライダー山の道標



④ 発心城跡・武者どもの夢の後

を黄色に染めた菜の花を楽しんだ時の句。

濃かに 弥生の雲の 流れけり

○グライダーが飛ぶ

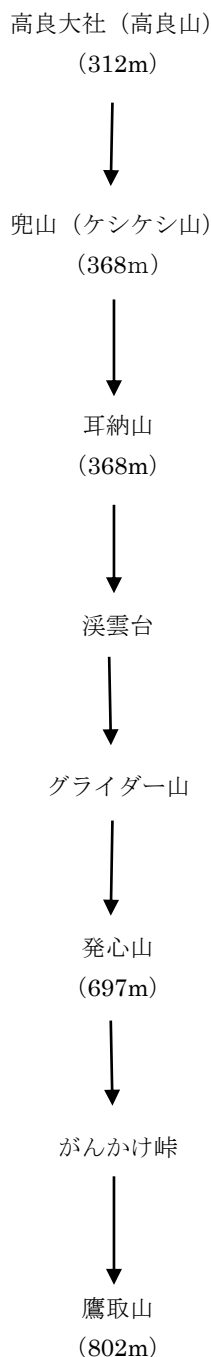
その空をかつて青年たちが飛んだ。スカイラインを走ると「グライダー山」と名付けられた頂に至る。宇宙飛行士・若田光一さんが学んだ九州大学工学部航空学科。多くの学生が航空機飛行の基礎を学ぶため、グライダーでこの山から大空に羽ばたいた。昭和16年2月には滞空時間13時間41分の日本記録を達成した。その記念碑もある。

宇宙飛行士と言えば、うきは市出身のエリソン・オニヅカがいる。スペースシャトル・チャレンジャー号の爆発で帰らぬ人となった（1986年）。オニヅカは

その3年前、故郷を訪れ「夢への挑戦」を母校・浮羽小学校で語っている。

もう一つ、珍しい山名は「けしけし山」（兜山）。洋画家・青木繁がこの山に散骨を頼むと遺言した。「小生は彼の山のさみしき頃より思い出多き筑紫平野を眺めこの世の怨恨と憤懣と呪詛を捨てて、静かに永遠の眠りにつくことを願った。二十

散策コース



八歳九か月。命日には「けしけし祭り」が行われる。山頂の歌碑は、坂本繁二郎が筆を執った。

我が国は 筑紫の国や 白日別母い
ます国 櫛多き国 (繁)

○サザンカ群生―長岩山

耳納スカイラインから急坂を降りて、その途中、長岩山の溪雲台に出ると、サザンカの群生地（福岡県天然記念物）を見ることが出来る。約2haの斜面に、高さ4mもの原種サザンカが数千本も自生して、白を中心に淡い紅の花を咲かせて、見事だ。長岩山は北限自生地としては佐賀県東脊振と並んで最大規模。昭和30年代、ヒノキ植林のため伐採されたが、その切り株から株立ちして、群落をつくった。毎年10月に「サザンカ山祭り」が開かれている。

桜の名所・発心公園を経て、草野の街に向かう。

耳納連山は断層によって、切り立った北側（久留米市側）とくだらかな南側（八女市側）の山麓を形成している。北麓にはいく筋もの川が流れ落ち、滝も多い。麓の草野に降りる途中も鰐口の滝、発心二の滝が水しぶきと音を響かせている。流れ下って平野の出るところに扇状地が出来る。田主丸く草野く山本にかけて果樹園や苗木が育てられているのは土砂が粗く、水はけがよい適地となっているからだ。巨峰やカキ、ナシ狩りが出来るのも、御山のおかげなのだ。



(25)

コラム 筑後吉井おひなさまめぐり（2月10日ごろから4月3日）

吉井町の白壁通りや蔵しっく通りなどの旧家が所蔵するお雛様を一般公開。江戸時代から各家に代々伝わってきた雛人形から現代雛まで展示される。宿場町らしいお雛様として「おきあげ」がある。お雛様に歌舞伎や浮世絵の題材を合わせてデザインした手作り雛で箱雛と一緒に飾られる。開催中は「折り紙・お雛様づくり」や「ひなこけし」の絵付けなどイベントも。5月のゴールデンウィークには「小さな美術館めぐり」も催される。

コラム 楽しく生きる「田主丸」

植木の街として知られる田主丸、その伝統は長い。江戸時代、戦国から平和の世に移ると、園芸ブームが巻き起こる。「田主丸」は「楽しく生まれる」の意味だという。戦国武士が刀を鍔に持ち替えてこの地に入植、開墾した。彼らの心情は楽しく生きることだった。サムライを捨てたわが身を慰め励ます気持ちもあったろう。そんな人々の間から苗木・接ぎ木の名人、盆栽の達人が生まれ、代々引き継がれ改良が行われ、全国にも比肩すべき産地はないと豪語するまでになった。その伝統は今も引き継がれている。ツツジ、サツキ、ツバキ、マキ、ベニカナメなど全国有数の緑花木の生産地となっている。盆栽、鑑賞松も有名だ。

福岡市・アクロスビルの南面を「森」に仕立てた内山緑地建設（株）は、環境緑化の時代到来を予見し、こじんまりした庭木から群生植栽を提案、長崎の原爆平和公園も手掛けている。本家・内山緑地は「ガーデンショップ散歩道」を造り、一般に開放している。

「花と龍」を書いた芥川賞作家、火野葦平の自宅（北九州市・若松）は河童だらけだ。筑後川沿いに語り伝えられている「河童伝説」を知り、田主丸の河童にほれ込んだ。「飄飄渺渺」（飄々渺渺）と生き楽しむのを、河童族信条とした会を結成した。田主丸の楽生（楽しく生きる）族たちは意気投合、この地を愛した。河童は相撲好き、いつもうたた寝している「弥五郎」、酒泥棒の「よど」など河童民話も多い。街には1500体の河童像が相撲を取ったり、頭の皿を乾かしたりしてのんびりと暮らしている。



②白壁の街のそぞろ歩き（うきは市）

「コースⅡ土蔵―蔵の館―白壁通り―町並み交流館商家

―蔵しつく通り―金子文夫資料館」

豊後街道の久留米―日田のほぼ中央に位置する吉井町（うきは市）は古くから宿場町、商工業の街として栄え、「西の倉敷」と呼ばれた。道の両側に白壁土蔵造りの商家が軒を並べ、掘割も残り、平成8年福岡県内第一号の重要伝統的建造物群（まちなみ）の保存地区となっている。

街歩きのアートは「土蔵」（観光会館）からが良い。ここから「居蔵の館」、さらに鏡田屋敷、白壁通り、蔵しつく通りと歩く。白壁通りに向かうとすぐ「居蔵の館」がある。明治末の建築で、製蠟業で財を成した商家。引き戸を開けると広い土間、松の太木の梁、けやきの大黒柱。吹き抜けは高く、大きな神棚が突き出すように造りこまれている。風呂場、便所の天井は換気のため特別の工夫がされている。

居蔵の館近くの「鏡田屋敷」（県道511号沿い）は郡役所の官舎として建てられた。正面部分は江戸末期（1863年）建てられ、屋敷や二階増築は明治26年。高位の役人の部屋は一段上がり「敷居が高く」なっている。部屋数は20。一階では筑後川（大石堰）から吉井一帯に導水して穀倉地帯にした五庄屋についての展示を行っている。「おひなさまめぐり」では、ここに30余の段飾り、江戸期の「箱雛」が並び子供たちの歓声が聞こえる。

○「うだつ」を上げる

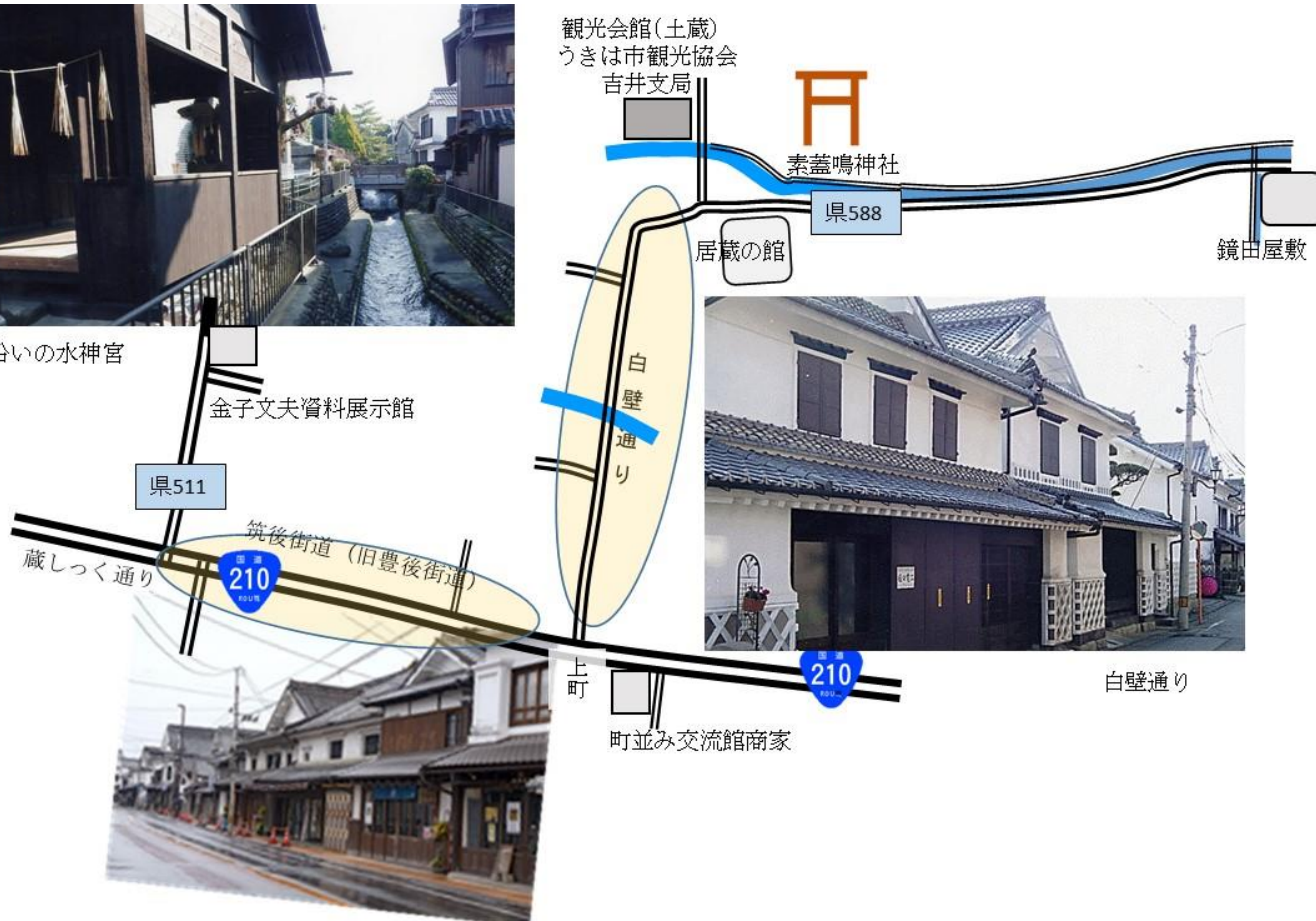
城下町・草野が草野氏の滅亡によって、この地域の拠点が吉井に移った。小さな集落に過ぎなかった吉井は宿場町として成長、次第に産物の集散地として商人金融業、蠟燭、醤油、酒などの各種産業も集積し、「吉井銀」と呼ばれるほどの財力を蓄え、金融事業と共に大地主を生んでいった。

しかし、江戸中期から明治初期にかけて、吉井の街が3回もの大火に見舞われたため、火災に強い重厚な漆喰白壁の商家、土蔵が建てられ、今に伝わる街並み、掘割など独特の街づくりが行われてきた。



掘割沿いの水神宮

金子文夫資料展示館



観光会館(土蔵)
うきは市観光協会
吉井支局



素蓋鳴神社

県588



白壁通り

町並み交流館商家



②⑥ 居蔵の館の中庭と大きな神棚

現在も伝統的建造物が158軒も残り、その一つ、町並み交流館として散策の一つの拠点となっている「商家」は、元乾物魚類問屋の老舗商家で一階は広い土間、二階の座敷は二間通しで36畳の大広間。柱はなく、その卓越した建築技術に驚かされる。この家では「うだつ」が上がっている。関東の商人街・川越の「うだつ」と同様、延焼防止の仕掛けだが富の象徴でもあった。また、耳納連山からの巨勢川、五庄屋の導水による南新川、さらに火災防止や洪水に対する災除川など3本の流れを街に引き込んで、独特の風情を醸し出している。



漱石が吉井に泊まった時の句

○五庄屋物語

帯木蓬生の時代小説「水神」は、江戸初期、吉井から田主丸にかけての生葉地区に筑後川から灌漑用水を引くため「大石堰」を築いた五人の庄屋の献身的な努力を描いている。筑後川に堰を造り、干ばつに悩む村まで約10km導水路②⑦を掘り、潤そうと、大石堰と分水、利水計画を立てた五人の庄屋が、失敗したら磔（はりつけ）の刑だと藩から言い渡されながら、村人も総出で完成させた史実だ。この事業がなかったら、筑後平野左岸一帯が穀倉地帯にはならなかっただろうし、地場産業も育たず、吉井の街の繁栄もなかった。

筑後川沿いの原鶴、筑後川温泉のすぐ上流に、「五庄屋遺跡」の大きな立て看板がある。横に「水神社」があり、小さな祠が祀られている。

水音が聞こえる。水門からすごい水勢で導水路に流れ込んでいるのだ。水路を辿ると、隈上川に出る。一旦、この川に流れ込み長野堰にたためられ、再び水路に導水され、田畑を潤し、水田を大きく広げた。隈上川沿いにも長野水神社があり、堰に使った舟形の

大石で造った手水場には五庄屋の名前が掘りこまれている。

しかし、昭和28年大洪水で大石堰は流失、現在の堰は3年後、新たに築堤され、長野堰はサイホン方式になっている。受益面積約2000ha。人々は五庄屋を恩人としてあがめ、長野水神社では毎年、祭りが行なわれている。



②⑦ 五庄屋の導水路



山辺道文化館



23

城下町一草野散策 街歩き

③草野・山辺の道へ（久留米市草野）

○櫓（はぜ）多き国

青木繁が「櫓多き国」と詠ったように、道の駅「くるめ」から山麓に向かつて歩くと「柳坂曾根の櫓並木」^{③⑤}。道路沿い約1kmに二百本が燃えるように紅葉、たわやかなハゼの実を付ける。18世紀初めから始まったハゼ栽培は、久留米藩の奨励策もあって先進地として名を馳せ、栽培農家を潤した。その実はロウの原料となつて、織物や木製品の艶出しとして使われた。ハゼの実ちぎりは寒風吹きすさぶ中、辛い仕事だった。

朝も早からよー やれーハゼ取りの歌があーよー 聞こえますぞえー

筑後各地で多くのハゼが栽培されたが、時代の波に押され、次々に伐採されていった。柳坂ハゼ並木はハゼ番人・香月徳男さんらの努力で保存された。

秋の紅葉時にはハゼ並木から杉の大木の山麓へ、緩やかな坂を上る。「満目黄葉銀杏秋」と詠われたイチョウの永勝寺、周辺はいろは紅葉。「深秋の三大薬師 永勝山 赤、黄もみじに心うばわる」。永勝寺は日本三大薬師の

一つ、大友勢に攻められ寺が焼失した時も、住職の話によると、人々が本尊を抱いて山中に隠し、守り抜いた。薬師様は金色に輝いて、今でも病む人を治しているという。また学問の「文殊菩薩」も多くの信仰を集めている。

○草野町の並み散策

天領・日田と久留米を結ぶ日田往還は筑後川沿いの平坦な道で、多くの旅人で賑わった。鎌倉時代から豪族・草野氏の城下町で、草野氏が滅び江戸時代に入ると、宿場町として栄えた。日田往還が筑後川沿いの川辺の道と山辺の道の分岐点にあたるからだ。そのため独特の伝統文化や建物、石造物が残されている。商家や農家、石垣・生垣など町並みの散策が楽しい。

草野散策は草野歴史資料館と山辺道文化館を訪ねることから始めると良い。草野歴史資料館^④は旧草野銀行本店の木造平屋建て（明治四十四年）、和風だが壁は空色に塗られ、洋風の雰囲気。源頼朝に任ぜられ、この地を四百年の長きにわたって支配した草野氏の資料を中心に収蔵、展示している。

山辺文化館も木造一部2階建て（大正3年）で、元は病院の建物だった。草野の町並みや伝統文化資料を収集、展示している。



もみじ寺で有名な「永勝寺」



柳坂の櫓並木と青木繁の歌碑

コラム 鹿毛家住宅

江戸時代から燼燼、醬油などを作ってきた草野の代表的な木造瓦葺の大
型商家。主屋などは18世紀末の建築
で、邸内には蔵が10数棟並んでいた
という。町屋らしく道路に面した玄関
から奥に長い建物で、これほどの規模
の商家は福岡県下にも少ない。



(29)

○草野氏の興亡

源平合戦で源氏方として功あつた草野氏は頼朝から筑後在国司・押領使に任ぜられ、竹井城を築き、領主として城下の整備を進めた。興味深い絵巻(蒙古襲来絵詞複製)が歴史資料館にある。最近、長崎県・鷹島沖で海底から蒙古軍船が発見された。この元寇で、鷹島沖で小舟に乗り蒙古軍船を攻撃する草野一族の活躍を描いたものだ。戦国末期、耳納連山の発心山頂に難攻不落と言われた発心城を築いた。本丸跡は土台が残るだけ、わずかに麓に発心公園が造られ、桜の名所となっている。本丸跡は背丈ほどの夏草に覆われ「つわものたちの夢の跡」。小さな丘が往時をしのばせる。鎌倉から天正まで続いた名家・草野氏の支配は、秀吉の九州征伐時、謀殺され終わりを告げる。

○栄光を今に

草野氏は城下町の整備、特に神社仏閣の再興、建設に力を入れた。その古社寺が草野の栄光を今に伝えている。九州の日光とも呼ばれる専念寺本堂は、阿弥陀如来像(鎌倉期)を本尊とし、金色の柱、龍の格天井、壁画、欄間など、壮麗な美を備える。

勸興寺には、カヤの太木で彫った千手観音、絹本着色勸興寺縁起(国重要文化財)があり、茶の開祖、栄西を招いて創建した千光寺は日本最古の禅寺、アジサイ寺として知られる。外に、本殿、拝殿、楼門が県指定文化財の須佐能袁神社がある。草野氏の栄光は、こうした古社寺に、わずかに偲ぶことが出来る。

○ツバキ、繚乱

「久留米市世界のつばき館」⑩は久留米の新名所。草野は古くからツバキ栽培が盛んで、赤い花びらに白い模様に入る久留米ツバキの三百年古木「正義」(草野町吉木)もある。シーボルトがオランダに持ち帰ったことでも有名だ。同館のガラスハウスにはベトナム、中国、台湾などの原種百種以上が展示されている。赤のほか黄色の花をつけるツバキ、大輪から小さな花まで種々様々。つばき館から、国際優秀つばき園に認定された「久留米つばき園」へ、つばきの小道を辿る。久留米つばき園は広さ3haに200種類、500本が楽しめる。明治時代からの花木の母樹園を整備し、四季を通じて散策する人が多い。



⑩ 鹿毛家の裏に樹齢300年のツバキ



ツバキ館で育てられているツバキ

ようこそ

森林セラピーロード

問い合わせ先うきは市森林セラピー事務局
(電話・代表＝０９４３－７５－３１１１)



㊼ 調音の滝



「まるたん橋」を渡るとチップの道

○巨瀬川源流の散歩道（うきは市）

巨瀬川・源流沿いの林の山道を歩く「森林セラピー基地」（平成２０年認定）。水源の森・百選にも選ばれている。森林や源流のせせらぎ、木立の道。「癒し効果」求めて、約２・２Ｋｍのウォーキングを楽しむ。

うきは市街から藤波ダムへ、さらに鷹取山裾を巨瀬川沿いに、県道５２号を登って行く。調音の滝㊼。滝の音が聞こえる。その音が音楽を奏するように聞こえたことからこの名がある。巨瀬川には調音の滝の上流に「魚返りの滝」「斧淵の滝」「三重の滝」と合わせて４つ滝がある。

スタート地点はＹの字型に二つに分かれる。コースは逆三角形に造られ、どちらから歩いても１周して、出発地点に帰ってくる。右の道を辿ると、すぐ自然石組みの小川に出る。裸足で子供たちが水しぶきを上げながら歩いている。水遊びに絶好のせせらぎだ。

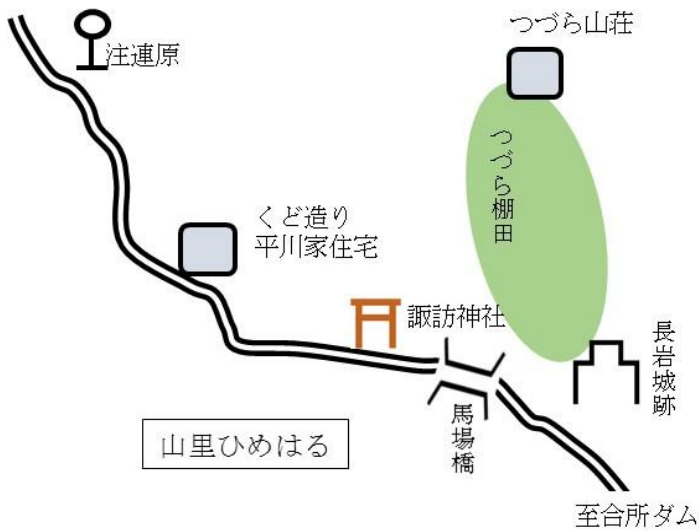
約５００ｍの坂道を歩くと「まるたん橋」。その名の通り、木の橋。セラピーロードはここを左折。杉のチップが敷き詰められた林の道を行く。杉木立を吹く風が心地よい。チップの道も弾力があり、絨毯のようにソフトで歩きやすい。

「まるたん橋」のすぐ上に魚返りの滝、真上から岩を叩き、水しぶきを上げている。なるほど鯉でも登れまい。展望所からは、「平家ヶ城」と呼ばれる山が見える。壇ノ浦の決戦に敗れた平家の落人が隠れ住んだという。巨瀬川の名も平清盛の巨瀬入道からきている。

健脚組は魚返し滝から、さらに上流へ。斧淵の滝、三重の滝へと繋がって行く。源流には天然記念物のサンショウウオが生息しているという。

山里ひめはる

④ 癒しの森へ



くど造りの平川家住宅（国重要文化財）

○山里ひめはる（うきは市新川・田籠地区）

合所ダムから隈上川の上流へ、棚田百選「つづら棚田」。標高300mから500m。彼岸花と石垣の棚田が美しく、豪雨で大きな被害を受けた時にも、その景観を取り戻そうと、多くのボランティアが駆けつけ復旧に力を尽くした。

東西4kmの山あい集落が点在しており、その景観は「重要伝統的建築物群保存地区」に指定され、福岡県森林セラピー基地ともなっている。

「くど造り民家平川家住宅」（国の重要文化財）をはじめ、茅葺の民家神社が造りだす山里の風景は全国的にも貴重とされている。中世の豪族・問註所氏の居城・長岩城跡は奇岩がそびえ、難攻不落を思わせる。岩伝いの急坂の散策路も造られている。

山菜料理、ヤマメ料理などが食べられる食事の店やレストランもある。



③ 長岩城跡にある石窟の石造群



つづらの棚田（うきは市）

(4) めぐり歩きの道

①花めぐりの道 -春-

- ① 花めぐりの道
- ② 漱石が歩いた道
- ③ 歴史を物語る道
- ④ カッパを訪ねる道

-桜をたずねて

みどりの里・耳納風景街道は、何といっても花が咲き誇り、巨峰をはじめ、柿、いちごなどフルーツの里だ。耳納北麓の人々が長い間、交配や育苗の研究と苦勞を積み重ねて「花と果実の里」を築き上げた。

耳納の春は紅梅、白梅がその訪れを知らせ、山間のモクレンの白い花の開花を合図に、満開の桜で一気に花の季節が始まり、初夏までツツジ、サツキが耳納北麓の山里を華やかに彩る。秋は、柳坂のハゼ並木、古寺、神社の紅葉が赤や黄色に染め上げる。ブドウ、ナシ、カキがたわわに実を付け、紅葉狩と共に巨峰などフルーツ狩りに訪れるファミリーが多い。

夏目漱石は、耳納の山道と里の花を愛した。久留米を訪れるたびに、耳納の山に登り、桜見を楽しみ、俳句を作り、作家への道を模索した。芥川賞作家・火野葦平もまた、耳納フアンの一人だった。土地に伝わる河童伝説を聞き、作品に仕上げた。田主丸の雲雀川にかかる橋には河童たちが相撲をとり、寝そべり、二日酔いで頭を抱える河童もいる。公園のトイレにも座る。訪れる人々の微笑を誘っている。

筑後川と耳納のお山の恵みで古代から文化が栄え、装飾古墳などの壁画から青木繁、坂本繁次郎まで画家を生んだ里でもある。

○浅井の一本桜めぐり

人々に愛されているのが「浅井の1本桜」(③4下)だ。樹齢100年、高さ18m。台風で痛めつけられ瀕死の状態に陥ったが、地元の花守さんたちによって養生を重ね、奇跡の生還。枝を木の杖で支えられながら、今では淡いピンクの花をいっ



③ 火炎のような花火動乱峰



③4 発心公園の桜と漱石の句碑(上)、および浅井の一本桜(下)

ぱいに咲かせる。ここから観興寺―永禅寺―若宮八幡宮の桜を訪ねる。

○将軍桜めぐり

千光寺には懷良親王のお墓がある。あじさい寺として知られるが境内の桜も見事。ハゼ並木の柳坂を登って、千光寺近くの永勝寺。裏山からは筑後平野が一望できる。山里から桜は次第に耳納連山・ケシケシ山に登って行き、緑の中に山桜を咲かせる。春、発心山を歩いた夏目漱石は、スギやヒノキの蒼黒い中を「山桜が薄赤くんだらに棚引いて、継ぎ目が確と見えぬ位靄が深い」と墨絵のような風景と桜の趣を「草枕」に描写している。

○発心桜めぐり

漱石は草野氏ゆかりの発心城址の桜見を楽しんだ。彼の句碑を取り囲むように桜が植えられ、麓に向かって桜の森が続く③4。草野の街中に降りても、専念寺や須佐能袁神社など神社仏閣の境内に桜が花開いている。内山緑地のしだれ桜並木も見逃せない。

○王子憩いの森と桜めぐり

高良山の中腹近くに王子池があり、そこから古宝殿城跡へ400段もの石段が続いている。その両側には桜並木、満開の桜のトンネルとなる。登りきると、不動明王石像と石仏群が待っている。麓の王子若宮八幡宮では秋、「花火動乱峰」③3が行われる。竹に火薬を詰めて王子池に向けて打ち出す花火で、久留米藩の鉄砲指南が伝授したと伝えられる。その王子池の周辺も桜がぐると咲き、湖面に映る。

—春から初夏へ—

〇つばきめぐり

最近、クローズアップされているのが、ツバキ。久留米市世界のつばき館⑩（平成26年3月開館）ではガラスハウスの中でベトナム、中国などの海外のつばきの原種100種以上が、またツバキ庭園には「正義（まさよし）」など久留米つばき50種が育てられている。つばき館でツバキに関する知識や散策コースを教えてもらうと良い。つばき館から約400m、久留米つばき園への「つばきの小径」を辿る。

「久留米つばき園」（平成20年3月開園・国際優秀つばき園）は明治時代に開墾された花木の母樹園・約3haに約500品種、2000本のつばきが植栽されている。樹齢1000年を超える白玉宝珠、小夜佐助、正義など貴重な品種や原種を見ることが出来るのが大きな魅力だ。また園内にはツツジも多く、紅葉ゾーンや梅園もあつて、季節を問わず散策が楽しめる。

耳納連山の麓の民家にはつばきの古木が花を咲かせている。樹齢300年という「久留米源氏」（鹿毛鶴之助邸）、「正義」（個人宅）、壽本寺には「ヤブツバキ」、また樹齢250年の「正義」（個人宅）、同120年の「久留米眉間尺」の古木が草野小学校の校庭にある。また最近「ツバキ油」も人気を集めている。髪油をはじめ、まろやかで、さっぱりした食用油としても、注目されている。

〇ツツジめぐり

「久留米つつじ」の名で、全国に知られるツツジの里だけに、百花繚乱。道沿いに、垣根に、また植木屋に、一般の民家にツツジが咲き誇っている。まずは世界つつじセンターを訪ねる。平成元年「世界つつじまつり89くろめ」が久留米市制100周年を記念して開催され、世界のツツジが集められた。約1haの園内には1600種、2万本を超えるツツジが育てられている。また、筑後川沿いの百年公園のツツジが満開の頃、広場ではつつじ祭りが開かれ、苗木を買い求める人で賑わう。

ツツジはキリシマツツジを品種改良して、今日の多様なツツジを咲かせるまでになった。樹齢300年を超えるキリシマツツジの古木は須佐能袁

コラム 300年愛されたつばき

寺社や個人宅に樹齢300年とされるツバキの大木が今も花を咲かせている。最も古く大きいツバキは「壽本寺の赤やぶ」（幹回り171cm、高さ16m）である。シーボルトが持ち帰り、ヨーロッパに広めたのもヤブツバキの1種で、「Donckelaeri」と名付けられている。茶花として使われる「佐助」の古木も多い。室町時代から宗教文化。茶道が盛んだったことを偲ばせる。



神社で花を咲かせているほか、ほとんどの寺社で見事なツツジを観賞できる。

耳納北麓を散策すると、どの家の庭、垣根にも色とりどりのツツジが咲き誇り、人々が丹精込めて育て、愛していることが伝わってくる。

「久留米ツツジ」は明治初期のころから米国を中心に輸出され、各地に広がり「クルメアザレア」として人気を集めている。

コラム ツツジにかけた久留米武士の意気地

キリシマツツジを飛躍的に品種改良した功労者に久留米藩士、坂本元蔵がいた。天下泰平の世であった天保年間、江戸を中心に盆栽や庭木を趣味とするブームが起こった。山中に苗木を求め、探す毎日。しかし、それには限界があると感じた元蔵は品種改良に乗り出す。毎年、苗木に色々、交配した種を播いたが、なかなか思うような新種は生まれなかった。諦めかけた頃、たまたま、庭の飛び散った種から、色も形も違うツツジが育ち、突破口が開かれた。元蔵は同好の人に、交配、育苗の技術を伝え、

「久留米つつじ」が広まった。

それから300年、700品種が誕生、300種以上が栽培されている。



紅葉狩りへ

○柳坂のハゼ並木

筑後の秋、紅葉の季節になると誰もが、「柳坂曾根のハゼ並木」を思う。画家・青木繁が、切々と望郷の心を歌ったように、耳納連山北麓の里はハゼの木が多く植えられた。その実からロウを作り、江戸期の主要な産業となったのだ。「櫨多き国」を思い起こさせるのは、柳坂のハゼ並木（約1・1km）。「道の駅くるめ」から、くるめ緑花センターを歩いてすぐ。真っ赤に、燃えるように紅葉した櫨の古木が約200本、沿道に並ぶ。歌集「村雨集」におさめられた青木の歌が刻まれた歌碑もある。

我が国は筑紫の国や白日別（わけ） 母ゐます国櫨多き国



③⑤ 柳坂曾根のハゼ並木

○ハゼは錦のふくろ

江戸中期、一人の庄屋の手で植えられた櫨の木は、やがて藩が奨励し、質量ともに優れた「松山櫨」、新品種「伊吉櫨」が生まれ、「櫨の国」となった。ハゼは「錦の囊（ふくろ）」と呼ばれ、「草木数多しと言えども世間財用に便あること、まだ此木より盛なるはなし」と奨励された。時代は変わりロウづくりが衰退すると、次々に伐採される。わずかに、柳坂の櫨並木が、栄光の時代を今に伝えている。

柳坂を山麓まで辿ると、永勝寺。創建は680年という古寺、本尊は薬師如来像。ここも紅葉が美しい。近隣には大杉に囲まれ、「アカメヤナギ」（樹齢200年以上）の大木もある。石段を登り境内に入ると、紅葉に圧倒される。

青木繁が「散骨」を願った「けしけし山（兜山）」へはここから登る。

コラム 青木繁の絵画と歌集

青木繁（1882〜1911）は久留米市荘島町の生まれ。東京美術学校（現東京芸術大学）在学中、白馬を受賞。代表作に「海の幸」「わだつみのいるこの宮」「日本武尊」などがある。また、歌人としても「村雨集」のほか「うたかた集」がある。28歳の若さで死去、命日の3月25日に近い日曜日に「けしけし祭り」が開かれる。放浪貧苦の中で天折し、埋もれていた洋画家・青木を世に出したのは、同じ郷土の美術評論家、京都国立近代美術館館長を務めた河北倫明（うきは市出身）で、美術学校在学中から青木を研究テーマにし、青木の代表作「黄泉比良坂」（第1回白鳥会賞受賞作品）を同校文庫で発見するなど、青木再評価に尽力した。河北宅は竹垣で囲まれ、現存する



② 漱石が歩いた道

明治の文豪・夏目漱石は耳納山歩きや思索を通じて俳人から小説家への道を切り拓いていった。「草枕」や「坊ちゃん」などの代表作に、耳納の里が描写され、句碑は、漱石の新しいスタートへの「しるべ」でもある。

夏目漱石は、親友・菅虎雄（ドイツ語学者）を訪ねて久留米を訪れるたび、耳納連山を歩いている。眼下に広がる筑後平野と筑後川の風景、特に桜と菜の花を愛した。明治30年夏「久留米に至り、高良山に登り、それより山越えを致し、発心と申す処の桜を見物致し候」と手紙にある。

「山道を登りながら考えた。智に働けば角が立つ、情に掉させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい」（草枕）

―と、有名な書き出しで始まる「草枕」は、一人の画家が高良山を山越えする情景を描きながら、漱石自身が語っているように「俳句的小説」で、彼の芸術観と小説観を表現した自信作であった。

人に逢わず 雨降る山の 花盛 （森林つつじ公園）

「草枕」の中でも 突然の雨でずぶぬれになって山を下る場面が出てくる。

「茫々たる薄墨色の世界を、幾条の銀箭が斜めに走るなかを、ひたぶるに濡れて行くわれを、われならぬ人の姿と思えば、詩にもなる、句にも読まれる」（同）

濃やかに 弥生の雲の 流れけり （発心城跡）

山を下る途中に発心公園がある。草野氏最後の城主・家清が築いた発心城跡で、漱石は桜見物にここを訪れている。現在も、発心公園として整備され、桜の名所となっている。

松をもて 囲いし谷の 桜かな （発心公園）

今は、松林はないが、句碑は桜の木に囲まれて、花吹雪の中に立っている。この耳納の山行きとは別に、明治三十二年一月、大分・耶馬溪を巡り、日田か



夏目漱石

（1867～1916）本名・金之助。

東京都出身、小説家。東京帝国大学在学中、正岡子規から俳句を学ぶ。俳号・愚陀仏。卒業後、愛知県松山市で中学校教諭、次いで熊本。先輩でドイツ文学研究者・菅虎雄宅に寄宿、第五高等学校教授。熊本で結婚。高浜虚子の勧めで「吾輩は猫である」（明治三十七年）を執筆、続いて「草枕」「二百十日」（同三十九年）を発表。朝日新聞社入社。「虞美人草」「三四郎」「それから」「門人」などを誌面に連載。大正十五年十二月、胃潰瘍で大量出血し死去。享年五十歳



ら船で下り、吉井の街に泊まっている。

懐かしむ衾に聞くや馬の鈴

（吉井民俗歴史資料館前）

旅情のこもった句である。

久留米市に入る山川追分で、

親方と 呼びかけられし 毛布哉 （山川追分）

客待ちの人力車車夫に「親方」と声をかけられて、漱石はしきりに面白がっている。



③6



③ 歴史を巡る道

古代から、鎌倉、江戸、明治まで、
時代をタイムスリップ



③ 珍敷塚古墳＝あの世への
旅立ちが描かれている。

赤、白、青に彩色された「あの世」への旅

筑後川の流れ、豊かな筑後平野、耳納の清流。人々は耳納連山の北麓に、古くから住み付き、暮らし、文化を育んできた。縄文時代の石器などの出土品、弥生時代の甕棺群がそれを示している。大きく花開くのは古墳時代だ。山麓に2千を超える墳墓が造られ、6世紀後半には彩色された装飾古墳や巨大な前方後円墳が登場、今は古墳公園に整備、古代まほろばの世界に浸ることが出来る。

奈良時代になると、筑後国府が置かれ、源平合戦で功名を上げた草野氏の領国となり約400年、その繁栄ぶりが旧城下町、寺社に残っている。江戸期を通して宿場町として栄えた。

11月初旬、草野の古民家が一斉に公開される「草野まちかど博物館」や、春には、隣の白壁の街・吉井の「筑後吉井おひなさまめぐり」など、街歩きを楽しむ人々で賑合う。草野にある江戸中期の白壁屋敷「鹿毛鶴之助邸」は町並み保存のきっかけを作った。古民家に代々伝わる美術品や庭を鑑賞できる「草野まちかど博物館」では草野の文化の豊かさを感じ、深さを感ずる。「筑後吉井おひなさまめぐり」では白壁の「居蔵」など吉井商人の富と力を示す建物群も公開される。

耳納の里 豊かな歴史は文化をはぐくむ

(1) 古代まほろばの里へ

(コース) 日岡・月岡古墳―屋形古墳群―森部平原古墳群―大塚古墳

耳納連山の北麓には、円墳群、巨大な前方後円墳がひしめいていた。多くが果樹園造成などで消えて行つたが、桜の名所で、公園化された森部平原古墳群(久留米市田主丸)には70基にも及ぶ円墳群(県指定史跡)、横穴式石室も道路わきに幾つも見ることが出来る。最大の円墳は権現塚古墳(6世紀前半)。3重の周濠を巡らせ、全長150mで九州最大級。隣の御塚古墳(5世紀末)も3重の周濠を持ち、全長123m。古墳公園となっている。

平原公園から降りると、「当国一の大家なり」と筑後国史(嘉永六年、1853)が書かれた。前方後円墳(全長103m、円墳直径60m)として有名な田主丸大塚古墳。その周辺広く古墳公園として整備され、そこにたつと1500年前の古代世界にタイムスリップできる。

日岡、日岡古墳は若宮神社を挟んで両側にある。全長74m級の日岡古墳(前方後円墳・うきは市吉井町)は最初の装飾古墳で同じ赤、緑など彩色され、同心円文、三角文が石室壁にびっしり描きこまれている。国宝級とされる金銅で装飾した兜(庇付鉄冑)などが多数、副葬されていたのは月岡古墳だ。月岡古墳は直径80mの円墳を持ち、いずれも大きな富と力を持った豪族の存在を思わせる。朝鮮半島にも出兵した的臣一族と伝えられ、大和政権から送り込まれたとされている。

屋形古墳群(同吉井町・国史跡)には4基の装飾古墳がある。同心円文や三角文の文様装飾が多いが、珍敷塚古墳の石室壁画⑦は、具象的だ。ゴンドラの舳先にとまる一羽の鳥に案内され「あの世」へ航海する光景が描かれ弓矢を入れる軀(ゆぎ)弓、盾を持つ武人が見える。果樹園の坂道を登った原古墳には漕ぎ手二人、太刀、弓矢、盾などが描かれ、鳥船塚古墳では2本の帆柱の船が描きこまれている。

古墳時代、耳納連山の麓には、力を持った豪族が支配力を誇り、巨大な前方後円墳を造り、また装飾古墳は福岡、熊本にわたる九州北部地域の独特の文化として広がっている。



九州最大の田主丸王塚古墳。公園化され憩いの場である

(2) 古寺巡礼、神の祈り

○草野一門400年の栄枯盛衰今に伝える

古寺巡礼（永勝寺―千光寺―大生寺―専念寺）

お寺巡りは、柳坂のハゼ並木が紅葉する秋が良い。緩やかな柳坂を登って、大杉と紅葉に包まれた永勝寺へ。仁王石像に会釈して日本三薬師様、そして学問の文殊菩薩に合掌。創建は白鳳九年（680）と古い。もつと古いのが観興寺で約30年さかのぼる白雉年間の創建という。カヤの大木で掘った千手観音像が本尊、鎌倉末期の「絹本着色観興寺縁起」は国重要文化財。

千光寺 あじさい寺とも呼ばれる。建久三年建立。懐良王陵も有名



朱に塗られた専念寺本堂

時代は下って、草野時代。中国帰りの茶の開祖・栄西を招いて建立された千光寺は日本最古の禅寺の一つ（建立1192年）。2500株が花開く「あじさい寺」としても参拝者が多い。古刹で言えば、大生寺がある。行基の創設と伝えられ、筑前、肥前、筑後に275の末寺を擁し、一大勢力を誇っていた。大友氏の兵火に消えたが、後、有馬家の力で再興された。やはり行基の創建（和銅元年・708年）・石垣観音寺は樹齢300年、ハルサザンカの大木が2月に満開となり、サザンカ祭りが行われる。

草野家最後の城主・家清の時代に再建された専念寺は絢爛豪華な装いで、本堂の中心柱は金色、他の柱も朱と金泥で彩り、彩色豊かな壁画と鳳凰の欄間、龍の格子天井。前庭は小堀遠州の作庭。

草野氏城主・家清が、九州征伐に侵攻した秀吉に南関に呼び出され殺される。伴侍11人

は果敢に戦うも討死、発心城の65人も殉死。鎌倉から安土桃山と400年以上続いた草野氏は絶え、草野も城下町としての繁栄は終わりを告げる。江戸期に入ると豊後街道の宿場町として栄え、地域の信仰を集め、城下町の面影と共に、今に伝えている。

耳納北麓の古寺は、壮大な規模を持つ伽藍ではないが、根強い地域の信仰を集め、四季折々の山里の花々に彩られ、祭りが行われる親しみと安らぎの場となっている。

○山部の古刹 病気をいやし学問成就を祈る

神社巡り（高良大社―北野天満宮―若宮八幡宮―須佐能袁神社）

耳納連山の西端からお参りを始めよう。高良山（312m）に鎮座する「筑後一之宮」である高良大社（玉垂宮）⑤は履中天皇元年（400年）の創建と伝えられ、多くの信仰を集める正一位の格式ある大社。国重要文化財の石造大鳥居、本殿、拝殿とも大きく、古くから五穀豊穡、現在では無病長命の願いを聞き届けてくださる。河童についての伝説も。

祈りの場であると共に、政治、軍事の要衝。源平の争い、南北朝、戦国時代を通してこの一帯で、攻防戦が繰り返された。平家追討に功あった草野一門が北麓を領地として400年以上、この間、歴代城主は寺社の創建再建に力を注ぎ、現在も寺社がその栄華を今に伝えている。

筑後川を渡って北野天満宮（久留米市北野町）は菅原道真の分霊を祀る。朱塗りの楼門が印象的。おくんち（神幸祭・10月）は華やかで、大名、稚児行列が鐘や太鼓、笛のお囃子の中を約1kmも続く。

草野氏の居城・竹井城址近くの若宮八幡宮（久留米市草野）は文治三年（118年）、平家追討の加護を受けて建立。今でも花笠をかぶった稚児など古式豊かな御神幸祭が行われている。須佐能袁神社（創建1197年）は、別名、草野祇園社。

檜皮葺の本殿、拝殿、楼門共に県重要文化財。この神幸行列は「草野風流」と呼ばれ、鬼を先払いにした大名行列、獅子舞いなどで天下泰平、五穀豊穡を祈願する。



③⑧ 須佐能袁神社＝祭りで草野風流が大名行列する。夏には神達祭りが行われる。

④ カッパを訪ねる道

○葦平の河童談義

神社のご神体になった河童は5体、石造18体のほかブロンズ像も……。とにかく田主丸の人たちは河童が好きなのだ。そんな土地柄にぞっこんほれ込んだのが火野葦平。小説「糞尿譚」で芥川賞を受賞した北九州・若松の作家だが、河童を訪ねて田主丸に通い詰め、河童族グループも作った。その名は『九年坊本山田主丸河童族』、うぐいす色の法被を愛用した。「なんでんかんでん尻の河童」を信条とする第2世代に引き継がれ、8月8日に大祭を行っている。

この地に伝わる河童話を聞いている書きとめ、「河童曼荼羅」など計43編の小説を書いて、河童王国・田主丸の地名を全国区に広げた。河童のような人間もいた。「鯉とりまあしやん」（上村政雄さん・愛称あぶらま）と呼ばれ筑後川に裸で潜り、大鯉を抱いて獲った。相撲も強く、この土地の宮相撲で「大関」を張っていた。葦平は河童や鯉獲りを題材に幾編もの小説を書いている。「私は死ぬまで河童から脱けられないと観念している」とうれしそうだった。

吉井町や田主丸町は河童の本拠地、総大将・九千坊がここに本陣を張っている。北野天満宮では菅原道真を助けようと、追手を相手に奮闘した河童の将・三千坊が右腕を切り落とされ、その腕が天満宮に残っているという。平清盛の化身という河童・巨瀬入道もいて、河童も多士済々だ。

河童のいたずら話も多い、怠けものもいる。女好きで夜遊び好きの「樋の上の弥五郎かっぱ」は、昼間は樋の上で寝てばかり。寝ているうちにドボンと川へ。ところが寝ているうちに頭の皿の水が乾き、泳ぐ力が出ないまま、おぼれ死んだ——といった民話が至る所にある。

巨瀬川が筑後川に平行して流れている。この川に河童族が多く「生息」する。橋の欄干に寝そべったり、相撲を取ったり、うずくまったり。平原古墳公園の山中にも河童がいた。さあ、どんな河童に出会えるか、楽しみだ。

火野葦平と愉快的仲間たち

角力を取り まほろび合い いつまでも遊ぶ河童の子

○河童めぐり、川めぐり

JR田主丸駅のホームで迎えてくれるのは、身の丈4mもあるうかという青緑の大河童⑧。頭の皿に手をやって鎮座している。改札口を出て、振り返ると駅の建物が見ると河童だった。黄色いくちばしに大きな目。河童王国・頭目の九千坊に率いられ、遠くパミール山地から移住、田主丸を安住の地として来たと伝えられる。駅舎でもある「ふるさと会館」に入ると、ユーモラスな河童、色っぽい女河童が描かれ、河童たちの口上もあれこれ。ここでもらった河童マップを手に、河童との出会いを期待しながら歩き始める。巨瀬川沿い、雲雀川、駅前歩道には河童たちがウヨウヨしている。特に雲雀川沿いの河童像は相撲を取ったり、膝を抱いたり。なんでも、平成2年から河童の町おこしが始まり、150体はあるという。毎年7月には「かっぱ祭り」が行われる。

○神様と相撲を取る

まずは神様になった河童様にご挨拶する。お祭りでは「河童祭文」を読み上げる神社（須佐能袁神社）もある。高橋大明神は神様と河童が相撲を取ったところ。河童は人一倍、相撲好き。神様と相撲を取ることにした。神様は河童の強さを知っているから一計を案じた。彼らの力の源泉は頭の皿の水だからこれを乾かせばよい。取り組みの時間を夕方として、日中、日の照りつける場所で待たせた。思惑どおり、皿はカラカラに乾いてしまつて、力を出せず、神様の勝ち、になったという。

街を歩くと、カッパは橋の欄干などで、がっぷり四つに組んでいたたり、負けたのか頭をかいいたり、うずくまっていたり、川沿いに何体もの河童の像を見つけることが出来る。「河童はそっとなずき合い 葦の葉のそよ風に身を震わしもつれ合い、角力を取り まろびあい（中略）いつまでも遊ぶ河童の子 づらつらと河童の子」（北原白秋）。



コラム 河童好きの作家・火野葦平

(1907～1960)

火野葦平ほど、河童好きの作家はいないだろう。河童の里・田主丸(久留米市)に通いつめ、河童にまつわる民話、伝承を集めた。「晩年の5つの楽しみ」(西日本新聞に寄稿)の中で、5つのうち河童の絵を集めた画集、日本河童考の出版の2つが河童関連だし、自宅を河童の住む家「河伯洞」と名付けているほどだ。

北九州市若松出身。本名、玉井勝則、石炭積み込みの仲仕の親方、金五郎の息子。旧制小倉中学から早稲田大学へ進んだが、家業を継ぐため中退。作家への志は変わらず、「糞尿譚」を書き、芥川賞を受賞した。作品は2百冊以上に上る。

この命うずむる覚悟出でてゆく河童の道の凜然として

と詠い、従軍記者として中国戦地に向かい、「麦と兵隊」など兵隊3部作を世に問う。戦後、昭和23年、GHQによって2年間、公職追放された。

昭和35年1月23日夜、「漠然とした不安のため。さようなら」と書いて、睡眠薬自殺。享年53。葦平忌は高塔山で行われる。

コラム 五庄屋の物語

浮羽、吉井地方が豊かな穀倉地帯に一変したのは、江戸時代(寛文年間)、五庄屋が命懸けで造った筑後川・大石堰からの導水によって灌漑用水が確保されたからである。特に吉井の街には南新川、災除川、巨瀬川の3つの川が流れ、潤っている。

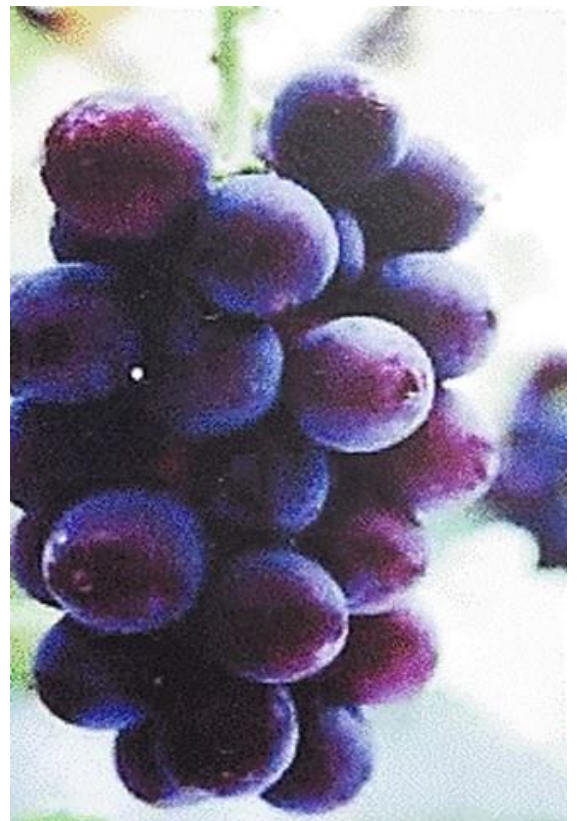
筑後川温泉郷の上流に大石堰がある。川沿いの堤防に「五庄屋遺跡」と大きな看板が立てられ、すぐ横に「水神」が祀られている。目を筑後川に向けると、川を井堰が渡り、シラサギが1羽、石像のように立ち、カモの親子が群れている。導水路には滔々と水音を立てて流れ込んでいる。建設が失敗した時の「磔の柱」まで建てられながら住民が力を合わせ、大石を運び、川を掘った。

その流れは吉井の街を巡り、「暮らしの水」となり、街に風情を与えている。南新川の「水神社」は石造り祠、その傍らを急流は白波をたてて流れ下っている。大変な水量だ。住宅の石垣沿いの水路を流れ、出入り口の橋や、荷揚げ場跡、水汲み場も残っている。



巨峰とワインとぶどうの物語

(5) 四季折々



○フルーツと植木の里

耳納連山の山麓は、果物の里である。耳納のお山から流れ下る清流と山間に形成された水通しの良い三角州の粒の粗い土壌を利用して、果樹園が次々と造成され、ブドウ、カキ、イチジク、いちごなど甘くおいしい果物の一大産地になっている。特に、長い年月と研究・品種改良の努力の末、実らせた「巨峰ブドウ」は、全国に名を馳せている。

○巨峰物語

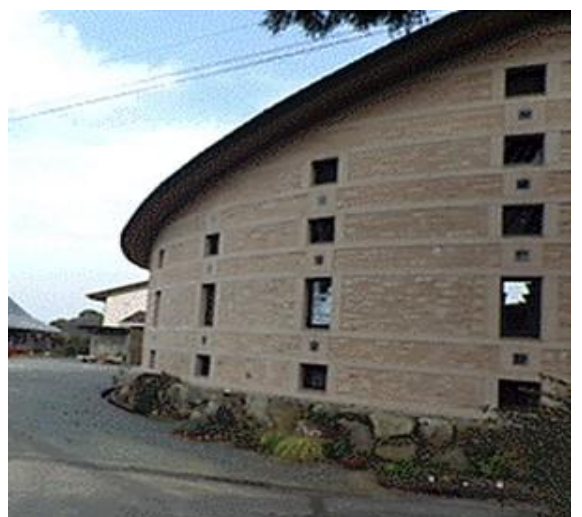
田主丸の「山の道」を歩くと、観光農園「ぶどう狩り」の果樹園が続く。田主丸町だけで200軒以上あるという。大粒で芳醇な味を持つ「巨峰」に魅せられ、観光バスや家族連れなど訪れる人が多い。

巨峰ワイン工場には、山辺の道から約200m、木立の間から石組みと白壁の貯蔵庫が3棟並び、その上にレストランがあり、若い女性客で賑わう。葡萄とワイン祭りは毎年9月上旬。11月の柿狩りシーズンになるとヌーボー祭り。巨峰ワイン、柿ワインの新酒が楽しめる。

大きな粒の房を付ける新品種「巨峰」の開発(石原早生と巨大粒のセンチニアルに品種交配、1940年)は、大井上康博士によるものだった。しかし、戦争、戦後の混乱で栽培されることなく、不遇に終わる。



巨峰ワイナリー
森の中に白い壁。醸成されるワイン



④ 胡麻祥酎・紅乙女の円形貯蔵屋

○色と味も、さまざまなフルーツ

その種をバトンタッチされ田主丸に持ち込んだのは門下生、越智通重氏だった。その頃、田主丸の農家47人が、果樹栽培の振興と自らの技術向上を目指して「九州理農研究所」を創設した。お互い資金を出し合って立ち上げた、農民による農業のための研究所、所長に招いたのが越智氏だった。昭和32年、初めて巨峰の苗木が植えられた。冬の剪定、3月には伸びた蔓を棚に結び付けると5月頃小さな実を付け始め、6月に袋掛けして8月中旬には大きな房に育ち収穫となる。苦勞の多い作業が続くが、その味と大きさが何よりの報酬だ。巨峰畑の片隅に「越智先生感謝の石碑」④がある。

勿論、ブドウは「巨峰」のほかピオーネ、ロザリオロッソ、甲斐路など色も粒も甘さも様々だ。またブドウだけではない。冬から春へのイチゴ狩りから始まって、夏7月のモモ狩り、ブルーベリー、8月のナシ、ブドウ。秋10月末からカキ狩り。不老長寿の果物・イチジク狩りには夏果と秋果がある。「富有柿」はとくに有名で、おきなもので1個500gにもなり、柿の王様と呼ばれるにふさわしい風格を持つており、糖度が高く、サクサクとした食感が人気を呼んでいる。



○山苞（やまづと）の道（久留米市田主丸）

山苞の道は、耳納の麓に美術館を造りたいという画家・西田豊さんの願いから、平成6年に会が発足、活動の第一歩として道の名を募集した。333通の応募から「山苞にもたせ給えり紅葉」（源氏物語）に由来する通り名が選ばれた。

耳納の緑に囲まれた山里には画家をはじめ工芸、染色、陶芸作家が住みついていた。みどりの日（4月29日）は「新緑を訪ねて山苞の道」が、また文化の日（11月2、3日）には「来て見てん山苞の道」のイベントが行われ、油絵、木版画、染物などの作品がギャラリーなどで販売される。山苞はワラに包んだ土産物の意味で、ここで生まれた作品をお土産に持つて帰ってもらおうと共に、山里の風景や人々の温かさを心の土産に、という気持ちで込められている。

山苞の道から少し入った山麓に、最初に巨峰ブドウの栽培を始めた果樹農家が造りだした「巨峰ワイン」のワイナリーが、また隣接して胡麻搾酹「紅乙女」の貯蔵庫、レストランがある。耳納の春を告げるモクレンの白い花が山裾を染める内山緑地。しだれ桜並木、ガーデンショップなど散策路も用意されている。



④

草野歴史資料館（久留米市草野）

明治末、草野銀行本店として建てられた和洋折衷の木造建築で国登録文化財。「若宮八幡宮縁起」など草野氏関連史料をはじめ、城下町から宿場町と発展してきた草野地区の歴史資料が見られる。近くの山辺道文化館は大正期に病院として建てられた和洋折衷の木造建築。伝統文化や町並み資料の収集、交流拠点ともなっている。国登録文化財。

コラム 「久留米」を食す

イチゴ 筑後平野から生まれる農産物は、豊かな「食」を作り出している。甘さと大きさと人気のいちご「あまおう」は赤いの「あ」、丸いの「ま」、大きい「お」、そしてうまいの「う」から名付けられた。福岡県産のイチゴは、ほとんどが、「あまおう」だ。

焼き鳥 久留米は焼き鳥屋さんが多い。人気の秘密は、鶏肉にある。福岡県特産の「博多地鶏」は軍鶏（しゃも）とホワイトロックを掛け合わせ。脂身の少ない、歯ごたえとうまみを持つている。焼き鳥のほか、水炊き、唐揚げにも。

川魚 筑後川は魚の宝庫。コイコク、あらい等の鯉料理から、アユ、ウナギ、エツまで川魚料理がおいしい。他にすっぽん鍋、はやの甘露煮、ガニ漬まで、多種多様だ。

日本酒 筑後と言えば、日本酒。城島や三瀬の造り酒屋の名は全国に広がっている。2月の城島酒蔵開きをはじめ、各造り酒屋で蔵開きが行われ、新酒を楽しめる。これも、筑後の良質米のおかげ、と言えよう。



④

吉井歴史民俗資料館

（うきは市吉井）

装飾古墳・月岡古墳から出土した副葬品・眉庇付き冑はじめ、この地方の古墳群関連資料を見ることが出来る。また、豊後街道を走る蒸気機関車などの貴重な写真資料、農機具など民俗史料も展示されている。



④ 越智先生の記念碑

(6) 耳納の道・豊後街道

春

久留米つばきフェア「久留米つばき園」(草野) 3月中旬
 たのしまる春まつり「田主丸」 3月中旬
 けしけし祭り「兜山」3月下旬青木繁の命日
 久留米つばき祭り「久留米市百年公園」 4月5日から5月5日
 久留米つばき祭り「久留米市」 4月第3土日
 開山忌「善導寺」 5月中旬から下旬
 タケノコ祭り(うきは市) 4月上旬
 賀茂神社浮羽おくんち 4月11日
 小塩つばき・しゃくなげ庭園 4月上旬
 筑後吉井の小さな美術館めぐり 5月3・5日
 浮羽麵まつり 5月下旬
 耳納連山山開き 5月下旬

夏

高良大社へこき祭り 6月1・2日
 須佐能袁神社 7月中旬
 田主丸花火大会 8月下旬
 田主丸ブドウ祭り 8月上旬
 若宮八幡宮御幸祭 9月第2土日
 花火動乱蜂(王子若宮八幡宮) 9月15日
 小塩ほたる祭り(うきは市) 6月上旬
 調音の滝開き 7月上旬
 流水プール(調音の滝) 7月21日
 吉井祇園祭 7月21・22日
 筑後川温泉花火大会 7月28日
 ブルーベリー、カキ、なし狩りなど各地で

みどりの里・耳納風景街道を貫く主たる道路は、耳納連山の北麓を東西に走る国道210号で、久留米市から大分市間(路線延長約14.5km)のうち久留米市から、うきは市の日田市境までの約25kmが風景街道として登録されている。

この風景街道には、国道210号と並行し、耳納山麓側を通る県道151号があり、かつての旧豊後街道の山辺の道、中道などが重なって夜明ダムで日田に入っている。これらの道路の歴史は古く、江戸時代には久留米藩(有馬藩)と天領・日田をむすぶ豊後街道。博多、熊本などから日田に通ずる総称・豊後街道の一つで、日田街道あるいは日田往還、筑後街道などとも呼ばれた。

豊後街道は、筑後川の左岸一帯の豊かな穀倉地帯を貫き、古くから日田往還の街道として使われ、宿場町も栄えた。久留米城下を出て、山川・追分で「山辺の道」と「中道」とに分れた。日田、吉井、田主丸などへの人の往来、豊かな産品が、この道を使つて、筑後川を下る舟運と共に久留米、さらに河口の若津港、全国へと運ばれた。鉄道も豊後街道に敷設され、馬車軌道、蒸気機関車が、国鉄久大線開

通まで走っていた。

現在も草野、吉井は宿場町の町並みを残し、吉井・白壁通りを走る蒸気機関車の写真も見ることが出来る(吉井歴史民俗資料館)。国道210号「浮羽バイパス」が久留米市田主丸うきは市浮羽町まで約14kmに新しく造られ、「コスモス道路」や「フルーツ道路」として整備中だ。

また、山辺の道からさらに山麓寄りに「山苞の道」と名付けられた道も風景街道に入っている。農免道路沿いに絵画、陶芸、染織作家たちがアトリエを建て、山に包まれ、お土産沢山の、おしゃれな道を目指しており、ワインや手作りのパンなどが人気を呼んでいる。

○二つの宿場町

豊後街道の起点となる高良山の麓には宿場町「府中」あり、日田へ向けては草野と吉井の二つの宿場町が栄えた。府中から吉井へは府中の東側・山川追分で分岐、耳納山麓の草野を通る「山辺の道」と、筑後川側の善導寺、田主丸を経る「中道」に分かれる。

鎌倉時代から約400年続いた草野氏の城下町は江戸期には宿場町となり、田主丸などでは枅形の街道の形状や細い路地など江戸時代の町割りが残っている。また吉井町(うきは市)も宿場町であると共に、ろうそくの原料・ロウや酒蔵、醤油業などの産業と商家が軒を並べ栄えた町で、人と荷の往来が激しかった。

「吉井銀」を流通させるほどの力を見せた吉井商人は蓄財した富を、白壁造りや水路整備など防火対策の街づくり、道路改修、橋づくりなど「公共事業にも投資」した。

○国道210号を蒸気機関車が走る

明治32年、吉井を訪れた夏目漱石が詠んだ歌の句碑が、うきは市の民俗資料館前にある。

なつかしむ衾に聞くや馬の鈴

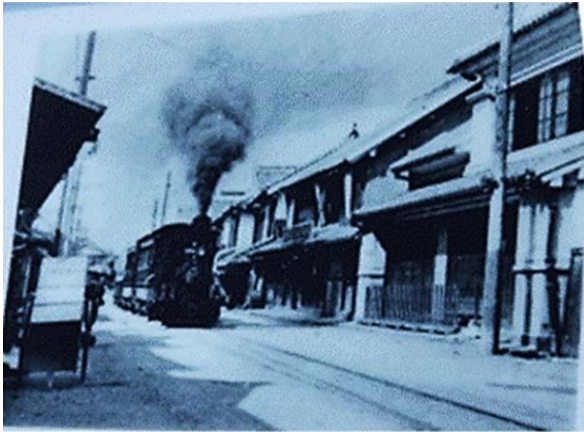
(吉井の宿にて)

秋

コスモスフェスティバル（北野町）
10月第2、3土日
高良山おくんち（秋期大祭）
10月9、11日
北野天満宮おくんち
10月第3日曜
来て見てん山苞の道（田主丸）
11月2、3日
草野まちかど博物館
11月上旬
田主丸耳納の市（福岡県緑化センタ
ー）
11月上旬
柳坂ハゼ祭り
11月上旬
棚田ゴうきは彼岸花めぐり
9月中旬
棚田オーナー収穫祭
9月中旬
うきは祭り
11月初旬
吉井しらかべ楽市楽座
11月初旬
ちくご吉井お宝市
11月第2土日
うきははぜ並木のライトアップ
11月上旬
カキ狩り

冬

三夜さま（田主丸・月讀神社）
1月23、25日
石垣観音寺さざんか祭り
2月中旬
小塩冬ほたる
12月1日
親子たこあげ大会（大石放水路）
1月第3日曜日
筑後吉井おひなさまめぐり
2月10日ごろ
浮羽の酒蔵開き
2月11日
梅見、イチゴ狩り



④ 豊後街道を走る蒸気機関車（吉井）

豊後街道を鈴の音を響かせながら行く馬車だろうか。田主丸―吉井間を筑後馬車鉄道が走り始めたのは明治36年。漱石が訪れたころはまだ馬車鉄道はなかった。次いで、翌明治37年には石油発動機関車になり久留米まで延長。同43年、街なかをジグザグに造られた道路の直線化や拡幅が進み、現在の白壁通りを黒煙上げて走る蒸気機関車の写真が残っている。豊後街道は、吉井商人、地主など民間の力で整備が進んでいるのが大きな特徴だ。田主丸も産業、経済の中心地として栄え、酒、しょうゆ、呉服など様々な商家が軒を並べており、中でも久留米藩御用商人「手津屋」が本店を構え、筑後川河口の若津港から大阪へ廻船するなど大きな商売を展開していた。

次いで昭和6年、国鉄久大線が開通。道路と鉄道、舟運と3本だての輸送手段がそろった。また、耳納山麓で発展した樫口生産、植木、果樹園などに伴って脇道も造られ、現在の緑の里・耳納風景街道の大きな地域資産となっている。国道210号バイパスはその沿道がコスモス街道やフルーツの道づくりが行われ、風倒木のチップを除草用に活用する社会実験も進行中だ。

○国重点の道の駅

風景街道の西側には「道の駅くるめ」、東端には「道の駅うきは」があり、風景街道へのガイド拠点ともなっている。

国重点・道の駅に指定された「道の駅うきは」は国道210号沿いにあり、「道の駅くるめ」（久留米市善導寺）と共に地元の農産物直売、散策などの観光情報も得られ、大変な賑わいだ。

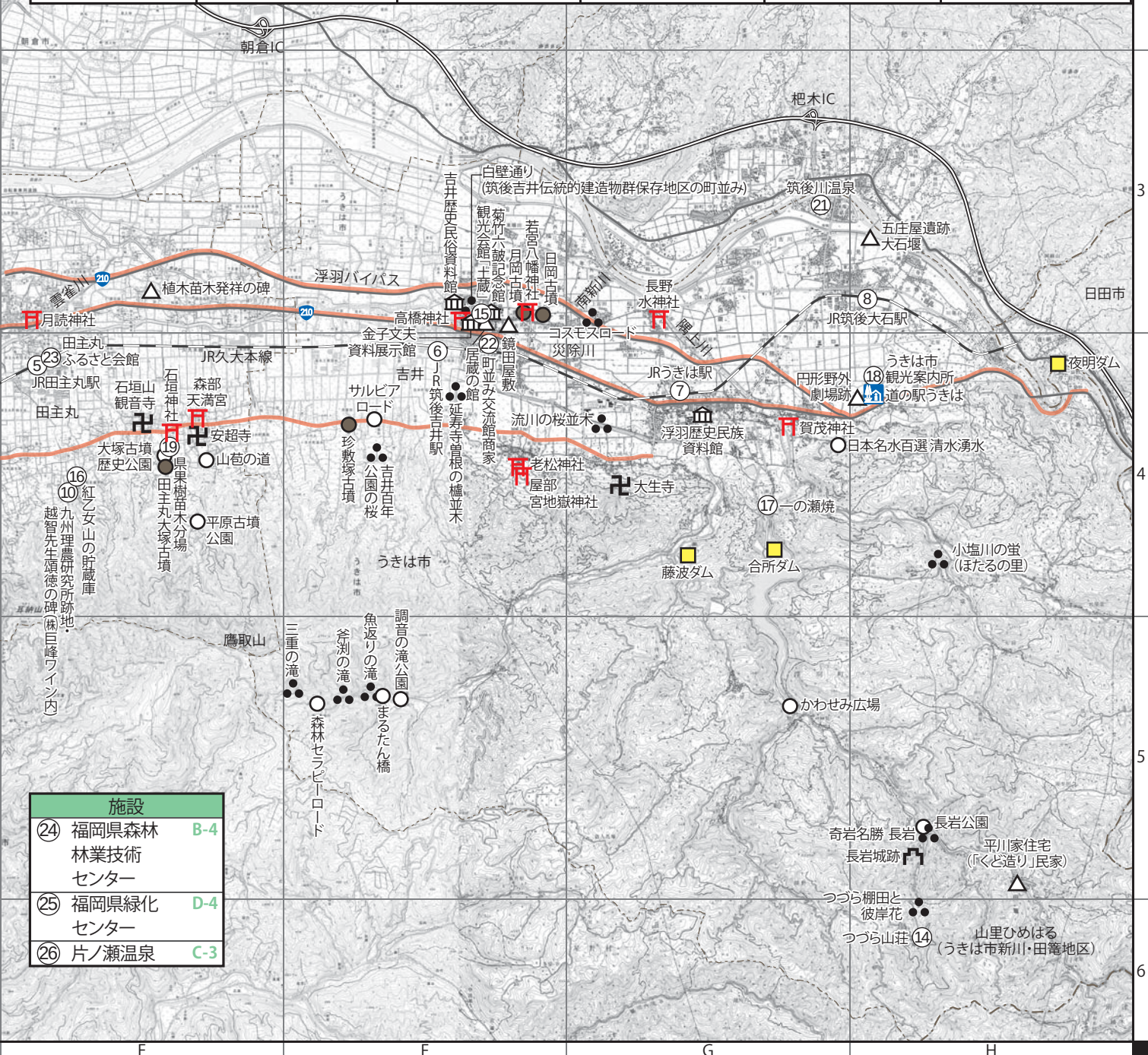
「道の駅うきは」は、くど造り民家を模した建物がユニークで、かつて階段式野外劇場が造られた跡を復元する工事も予定されている。水と緑の街として環境重視のため、EV自動車を使つての集荷、宅配や山村との連携などユニークな活動を目指している。

「道の駅くるめ」

は土地の野菜をたっぷり使ったレストランが人気で、緑花流通センターの入り口にあり、柳坂曾根のハゼ並木の散策や苗木を求める人たちの拠点ともなっている。



E		F		G		H					
神社		神社		寺		景勝地		史跡		博物館等	
阿蘇神社 D-4		源正院稲荷大明神 B-4		安超寺 E-4		延寿寺曾根の櫓並木 F-4		安国寺甕棺墓群 B-4		浮羽歴史民族資料館 G-4	
石垣神社 E-4		宮地嶽神社 D-4		景勝地		櫓と菖蒲の泉 C-4		山川前田遺跡 B-4		金子文夫資料展示館 F-3	
生目八幡宮 B-4		森部天満宮 E-4		アカメヤナギ B-5		発心二の滝 C-4		山辺道文化館 C-4		草野歴史資料館 C-4	
老松神社 F-4		屋部宮地嶽神社 F-4		浅井の一本桜 C-5		柳坂曾根の櫓並木 B-4		鏡田屋敷 F-3		吉井歴史民俗資料館 F-3	
王子若宮八幡宮 B-5		若宮八幡宮(久留米) C-4		斧淵の滝 F-5		矢作の石垣 C-4		平川家住宅 H-5		菊竹六誠記念館 F-3	
神鋒神社 D-4		賀茂神社 G-4		草野の町並み C-4		吉井百年公園の桜 F-4		(「くど造り」民家)		橋・ダム	
北野天満宮 B-3		若宮八幡神社 F-3		コスモスロード G-3		鰐口の滝 C-4		古墳		合所ダム G-4	
五柱神社 D-4		須佐能袁神社 C-4		魚返りの滝 F-5		史跡		中原狐塚古墳 D-4		藤波ダム G-4	
市杵嶋神社 D-4		寺		サザンカ群生地 C-5		五庄屋遺跡大石堰 H-3		下馬場古墳 C-4		夜明ダム H-4	
諏訪神社 A-4		石垣山観音寺 E-4		三重の滝 F-5		青木繁歌碑 B-5		田主丸大塚古墳 E-4		道の駅	
善院の天満宮 B-4		永勝寺 B-5		しだれ桜並木 D-4		居蔵の館 F-3		月岡古墳 F-3		道の駅うきは H-4	
平知盛神社 D-4		大生寺 G-4		小塩川の蜷 H-4		植木苗木発祥の碑 E-3		日岡古墳 F-3		道の駅くるめ B-4	
高橋神社 F-3		大本山善導寺 C-4		(ほたるの里)		上野家住宅御成間 B-4		珍敷塚古墳 F-4		その他の景観	
高良大社 B-5		興国山福厳寺 B-4		白壁通り(筑後吉井 F-3		円形野外劇場跡 H-4		城・城跡		王子池 B-5	
月読神社 E-3		雲遊寺(長者の井戸) D-4		伝統的建造物群保		郡境石 B-4		神籠石 B-5		大橋歴史公園 C-4	
飛塚神社 D-4		寿本寺 C-4		存地区の町並み)		鹿毛鶴之助邸 C-4		竹井城跡 C-5		お鷹の道 D-4	
中泉天満宮 C-4		専念寺 C-4		つつら棚田と彼岸花 H-6		夏目漱石句碑 B-4		長岩城跡 H-5		かわせみ広場 G-5	
長野水神社 G-3		千光寺(あじさい寺) B-5		奇岩名勝 長岩 H-5		八大龍王さま(善院) D-4		古宝殿城跡 B-5		久留米森林つつじ公園 B-5	
西泉天満宮 C-4		観興寺 C-4		流川の桜並木 G-4		八大龍王さま(富本) D-4		発心城跡 D-5		久留米ふれあい C-4	
東泉天満宮 C-4		森山不動尊 D-4		菜の花 B-4		水谷水車群跡 C-5		吉見城跡 B-5		農業公園	



施設	
24 福岡県森林 林業技術 センター	B-4
25 福岡県緑化 センター	D-4
26 片ノ瀬温泉	C-3

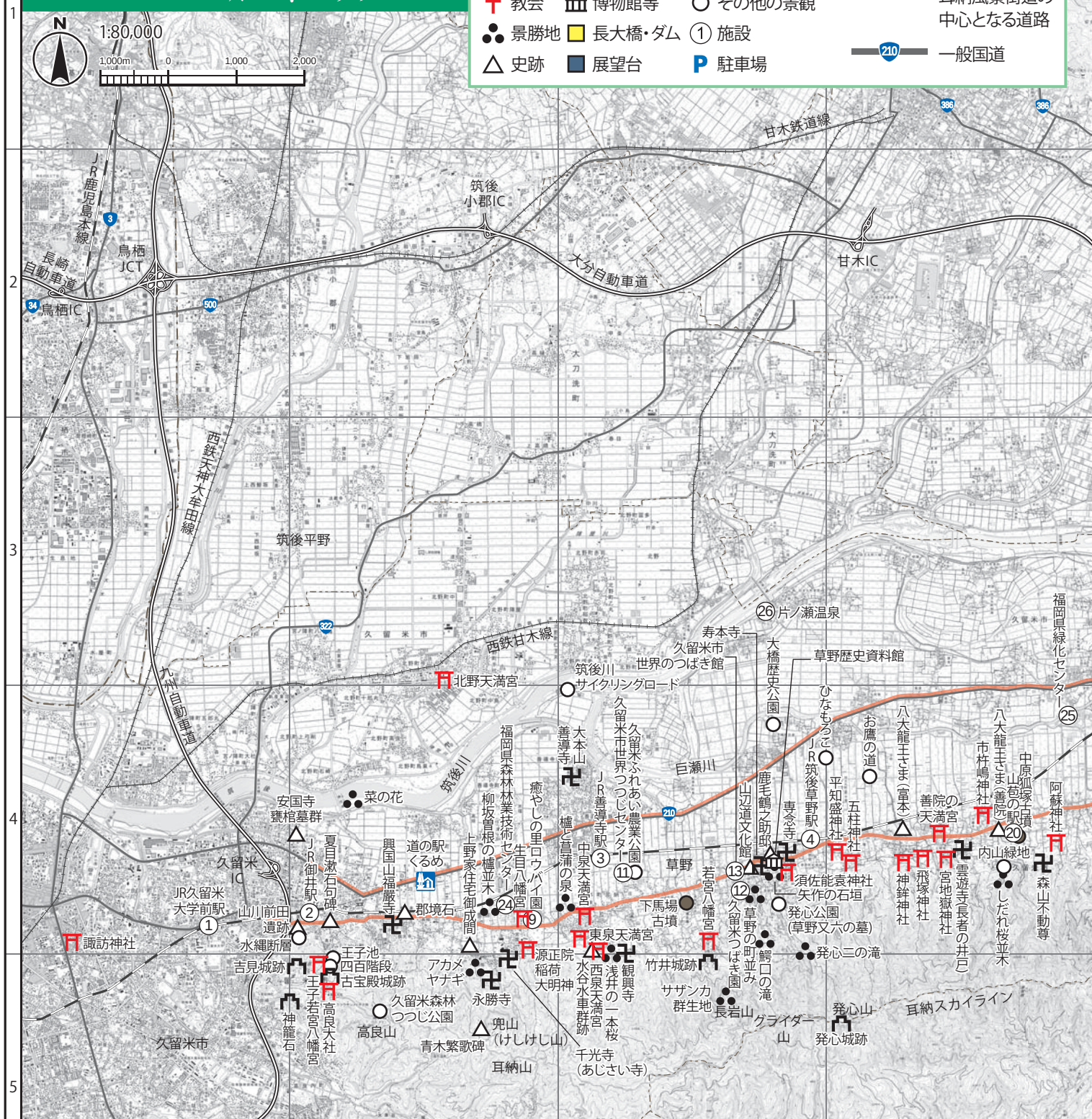
日本風景街道

みどりの里・耳納風景街道

ルートマップ

凡例

- 神社 古墳 市役所・町役場 自動車専用道
寺 城・城跡 道の駅 みどりの里・
教会 博物館等 その他の景観 耳納風景街道の
景勝地 長大橋・ダム ① 施設 中心となる道路
史跡 展望台 駐車場 一般国道



その他の景観		その他の景観		施設		施設		施設		施設	
サルビアロード	F-4	四百階段	B-5	① JR久留米大学	A-4	⑨ 癒やしの里	B-4	⑬ 久留米市世界	C-4	⑲ 県果樹苗木	E-4
調音の滝公園	F-5	森林セラピーロード	F-5	前駅		ロウバイ園		のつばき館		分場	
長岩公園	H-5	大塚古墳歴史公園	E-4	② JR御井駅	B-4	⑩ 九州理農研究	E-4	⑭ つづら山荘	H-6	⑳ 山苞の駅	D-4
日本名水百選	G-4	筑後川	C-4	③ JR善導寺駅	C-4	所跡地・越智		⑮ 観光会館「土蔵」	F-3	㉑ 筑後川温泉	G-3
清水湧水		サイクリングロード		④ JR筑後草野駅	C-4	先生頌徳の碑		⑯ 紅乙女	E-4	㉒ 町並み交流館	F-4
ひなもろこ	C-4	内山緑地	D-4	⑤ JR田主丸駅	E-4	(株日峰ワイン内)		山の貯蔵庫		商家	
まるたん橋	F-5	発心公園	C-4	⑥ JR筑後吉井駅	F-4	⑪ 久留米市世界	C-4	⑰ 一の瀬焼	G-4	㉓ 田主丸	E-4
水縄断層	B-4	(草野又六の墓)		⑦ JRうきは駅	G-4	つつじセンター		⑱ うきは市	H-4	ふるさと会館	
山苞の道	E-4	平原古墳公園	E-4	⑧ JR筑後大石駅	H-3	⑫ 久留米つばき園	C-4	観光案内所			



九州風景街道ガイドブック

人のくに、美のくに九州 Q-11 みどりの里・耳納風景街道

平成 27 年 10 月 1 日 第 1 版

日本風景街道九州ガイドブック編纂委員会

樗木武、堤昌文、玉川孝道、吉武哲信、榎谷秀秋

みどりの里・耳納風景街道担当（文責） 玉川孝道

協 力：みどりの里・耳納風景街道推進協議会

発 行 九州風景街道推進会議

風景街道推進会議事務局（九州地方整備局道路計画第二課内）



本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。